

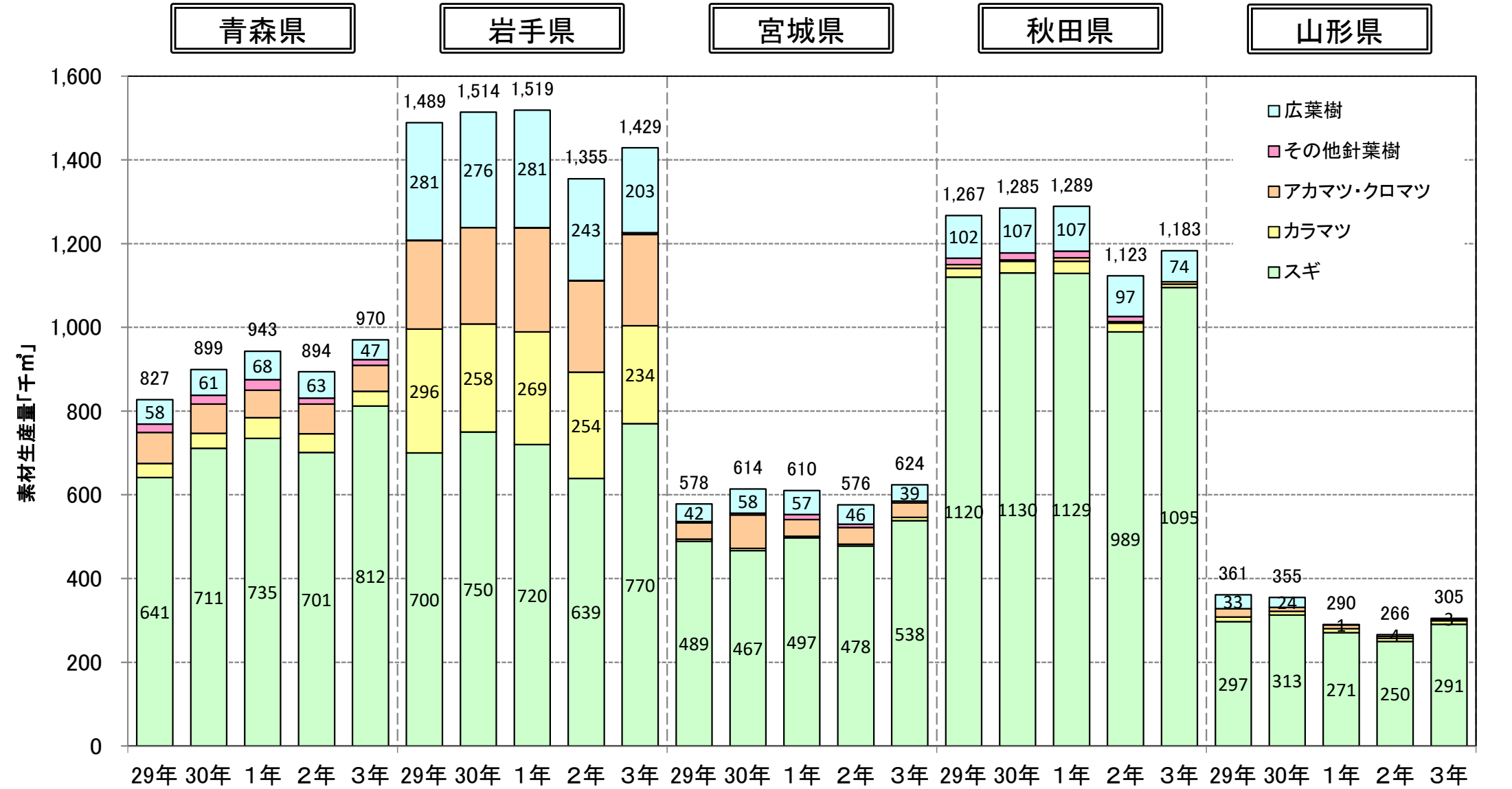
東北森林管理局管内の 木材需給及び木材価格等について

令和4年9月15日(木)

東北森林管理局

■ 東北森林管理局管内各県の国産材の樹種別素材生産量(民・国の合計)

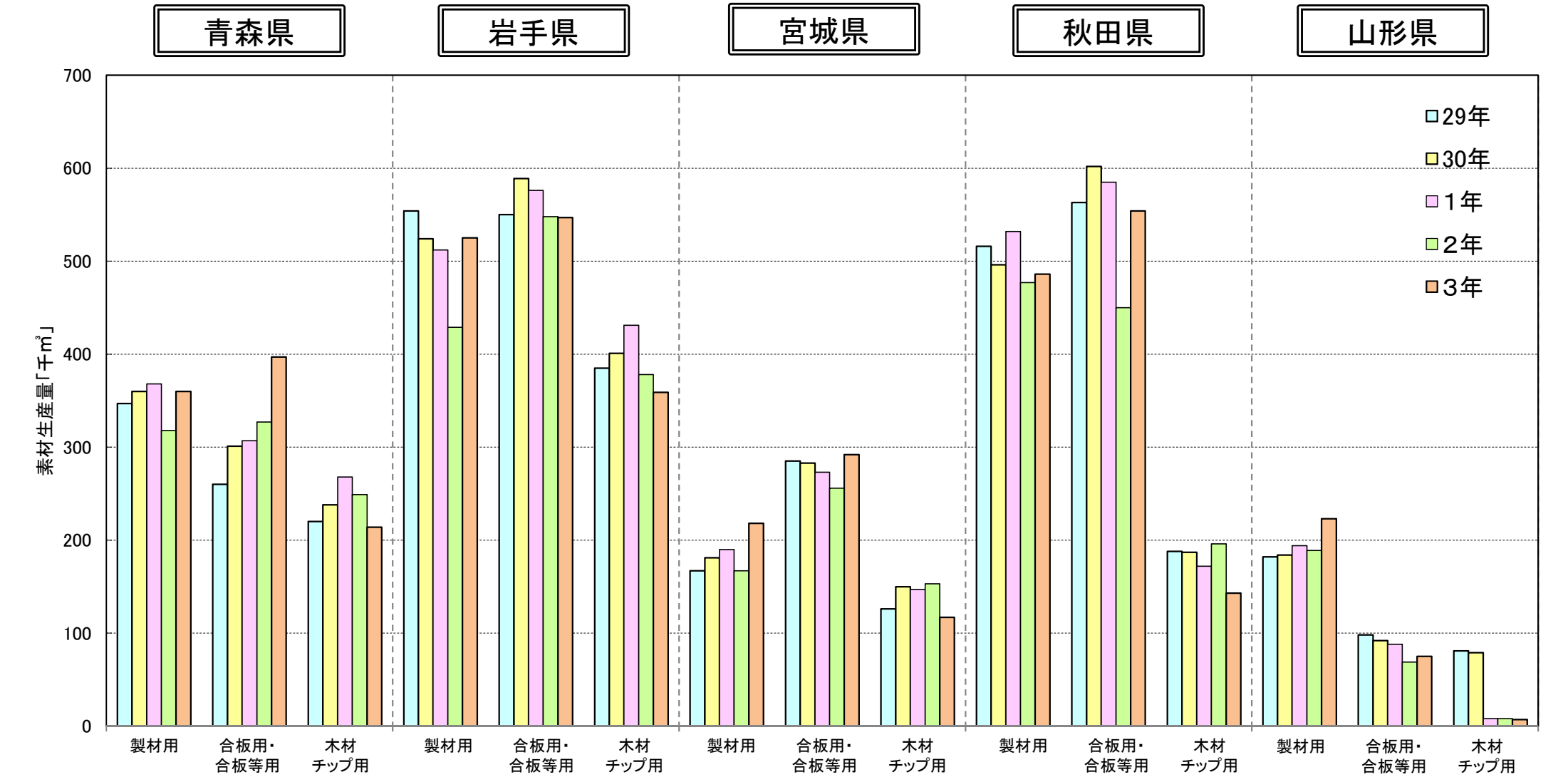
- 生産樹種は県によって異なる。青森県・宮城県・秋田県・山形県はスギが主体。
- 岩手県ではスギに加え、カラマツ・アカマツ・クロマツ・広葉樹の生産量が多い。



出典：農林水産省「木材統計」(令和3年度までの集計値)

■ 東北森林管理局管内各県の需要部門別国産材の素材生産量

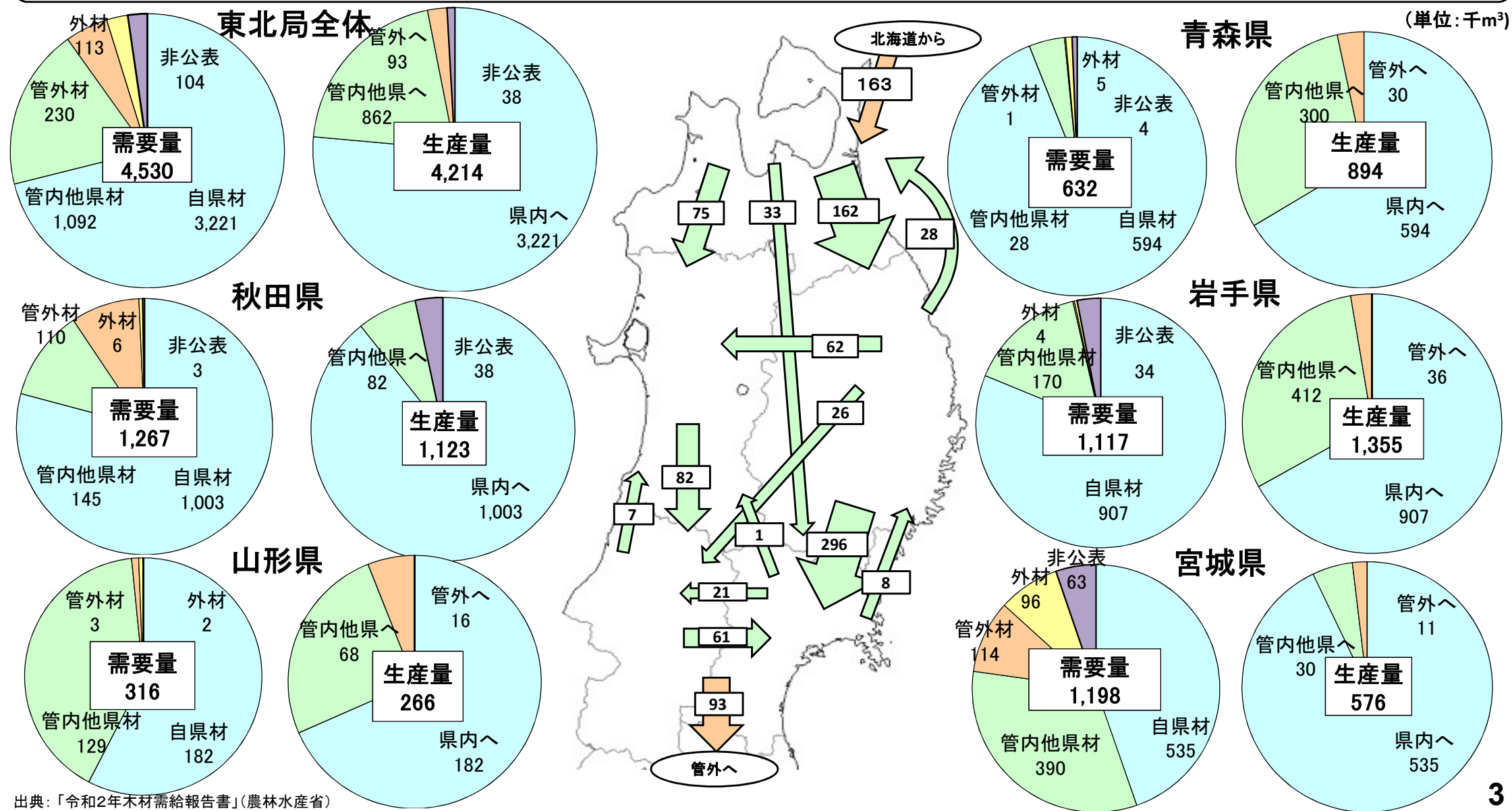
- R3年の製材用の比率が高いのは山形県(73%)。
- R3年の合板等用の比率は青森県(41%)、岩手県(38%)、宮城県(47%)、秋田県(47%)が高い。
- R3年の木材チップ用の比率は秋田県(12%)、山形県(2%)が低い。



出典：農林水産省「木材統計」(令和3年度までの集計値)
注意：平成29年度から、「合板用」が新たにLVL用を含めた「合板等用」に変更となった

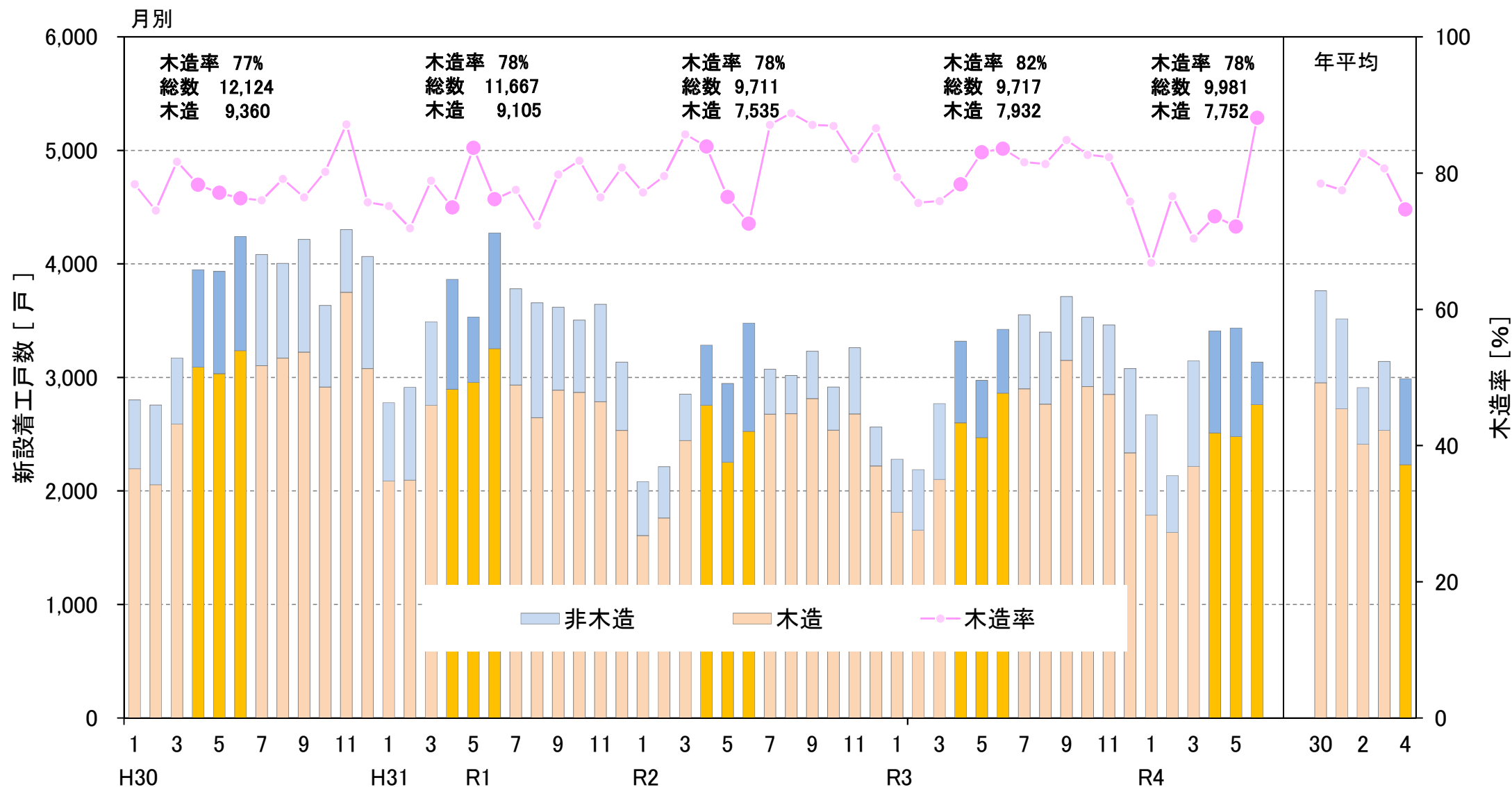
■ 令和2年における東北森林管理局管内各県の生産量及び需要量

- 東北森林管理局管内5県で生産された素材のうち、約98%が管内で流通している。
- 青森県、岩手県は生産量が需要量を上回り、宮城県、秋田県、山形県では需要量が生産量を上回っている。
- 青森県、岩手県、山形県は生産量の約32～34%が他県に出荷されている



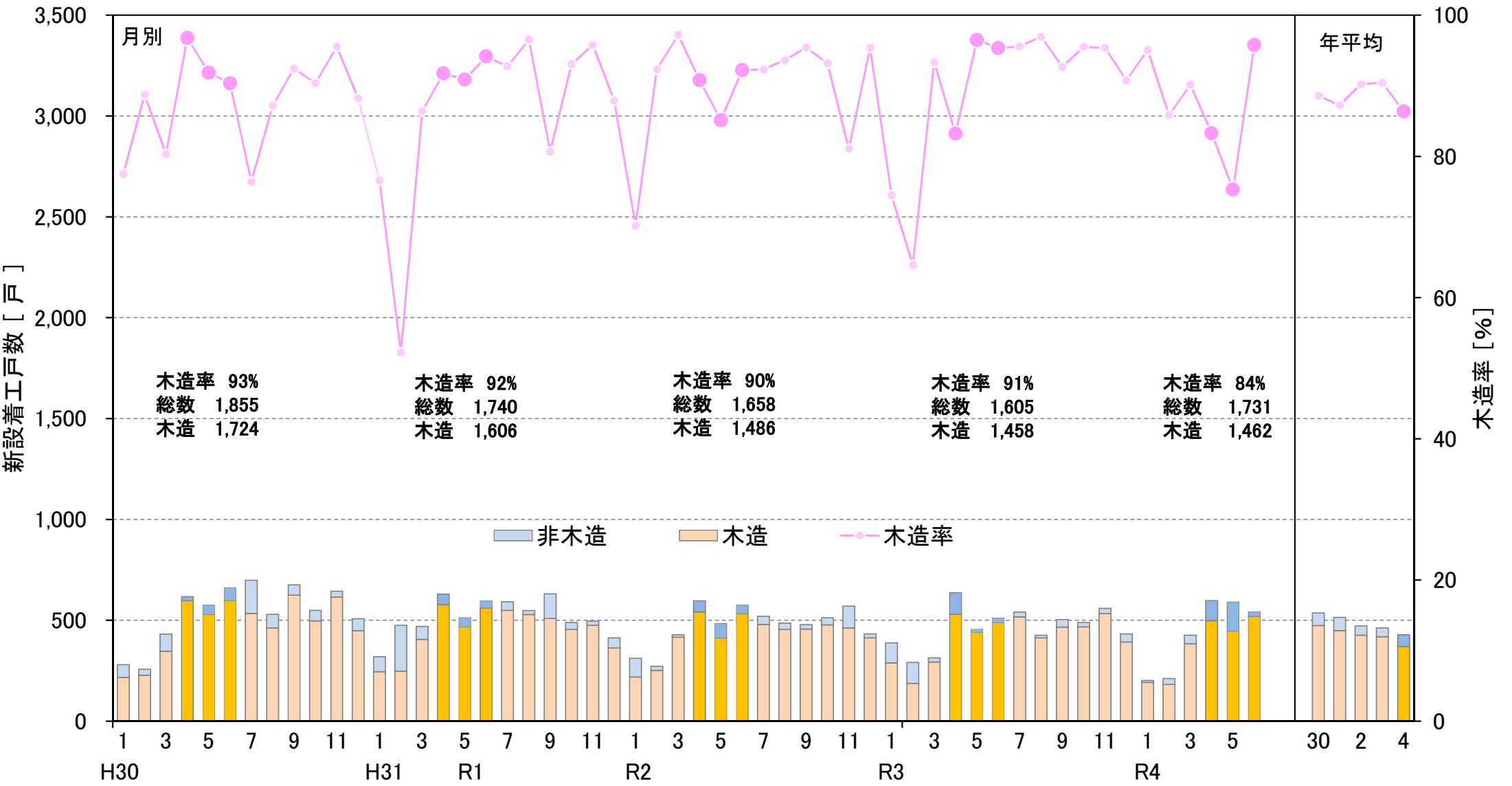
■ 東北森林管理局管内5県の新設住宅着工戸数の推移（平成30年1月～令和4年6月）

○ 東北5県の令和4年4～6月期の新設住宅着工数は、昨年同期より264戸増加した。
この期間の木造は昨年同期より180戸減少し、木造率は4%減少した。



青森県の新設住宅着工戸数の推移（平成30年1月～令和4年6月）

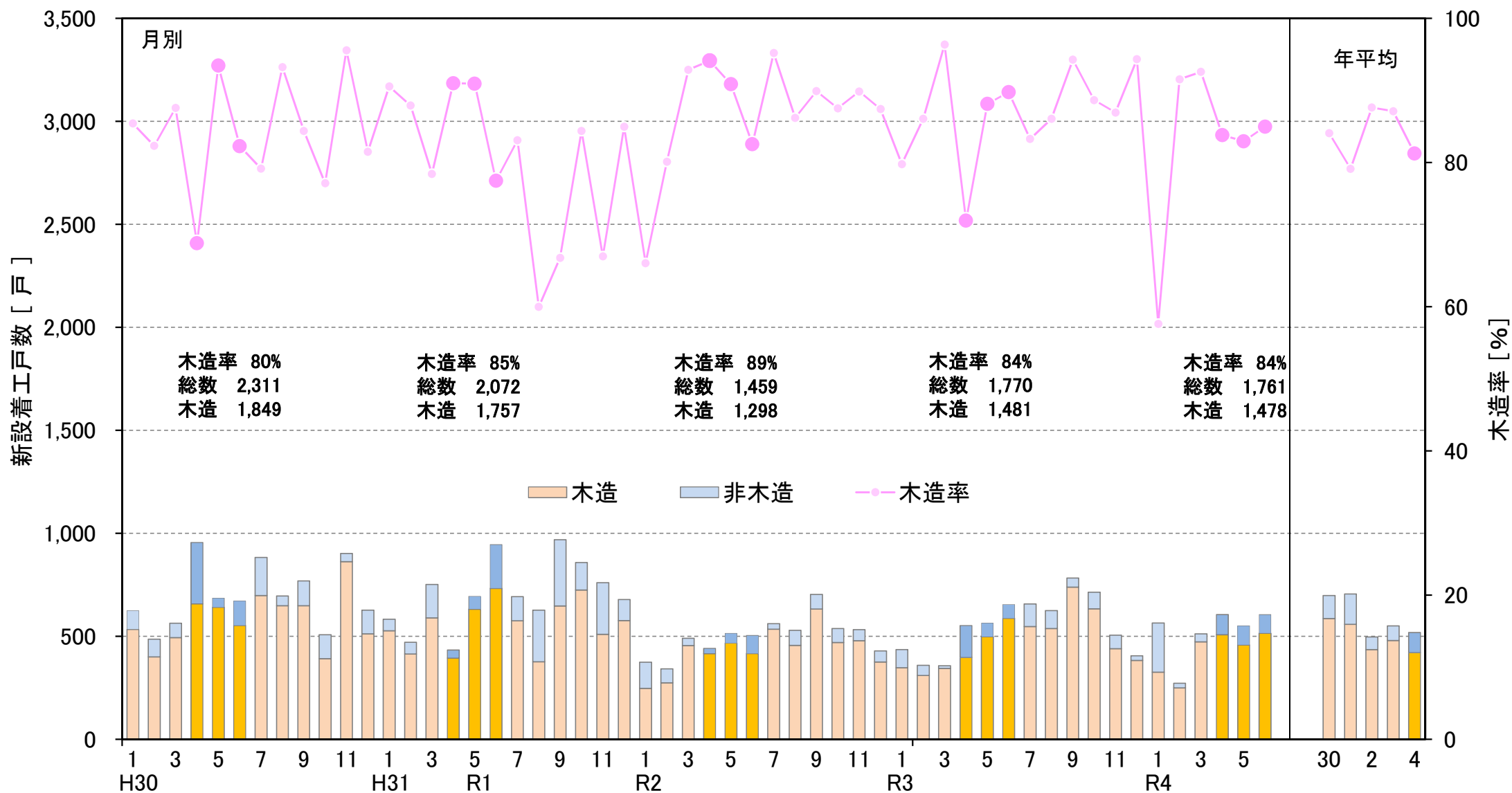
○ 青森県の令和4年4～6月期の新設住宅着工数は、去年同期より126戸増加した。
この期間の木造は4戸増加し、木造率は7%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

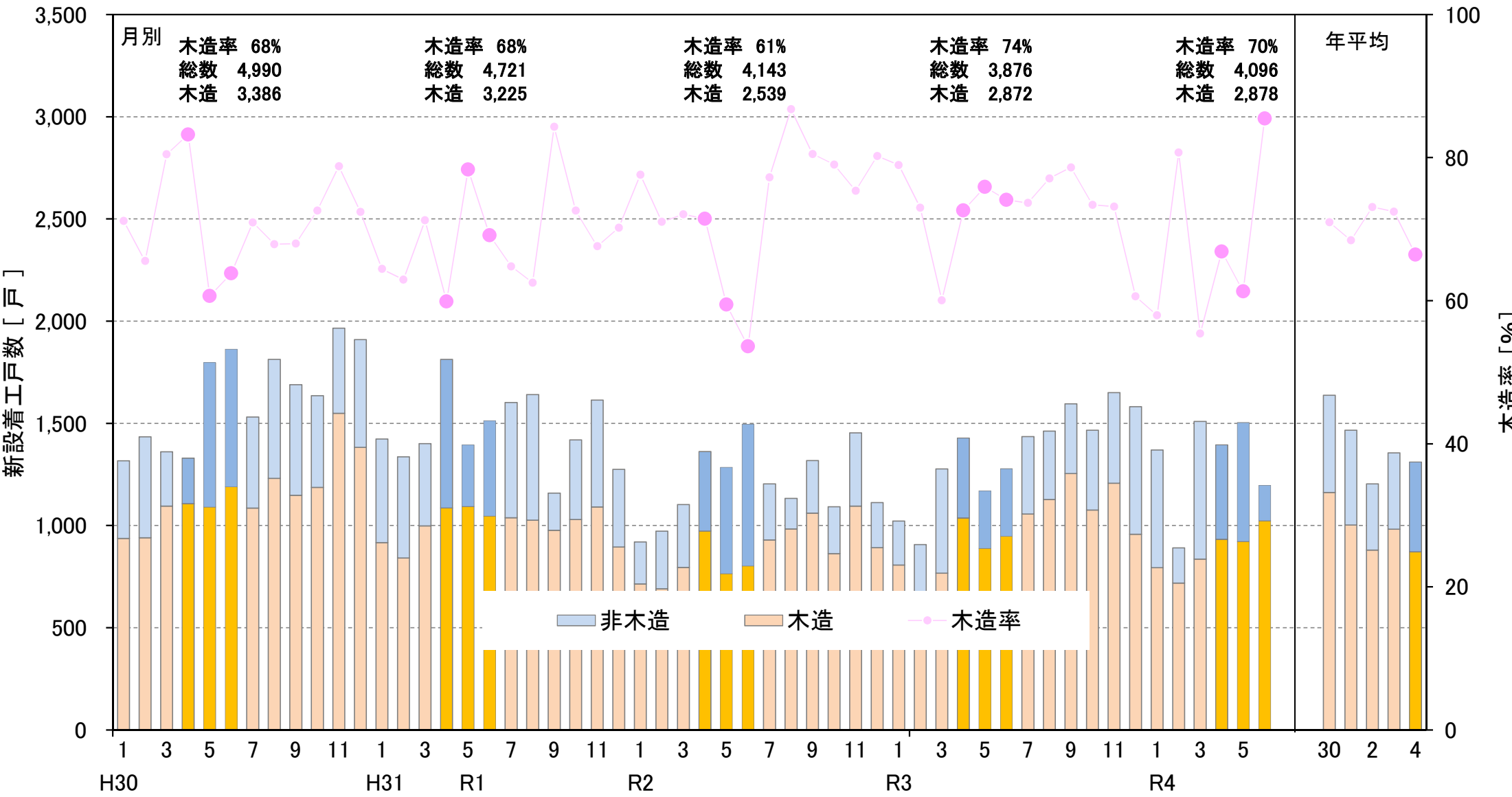
■ 岩手県の新設住宅着工戸数の推移（平成30年1月～令和4年6月）

○ 岩手県の令和4年4～6月期の新設住宅着工数は、昨年同期より9戸減少した。
この期間の木造は3戸減少し、木造率は±0%であった。



宮城県の新設住宅着工戸数の推移（平成30年1月～令和4年6月）

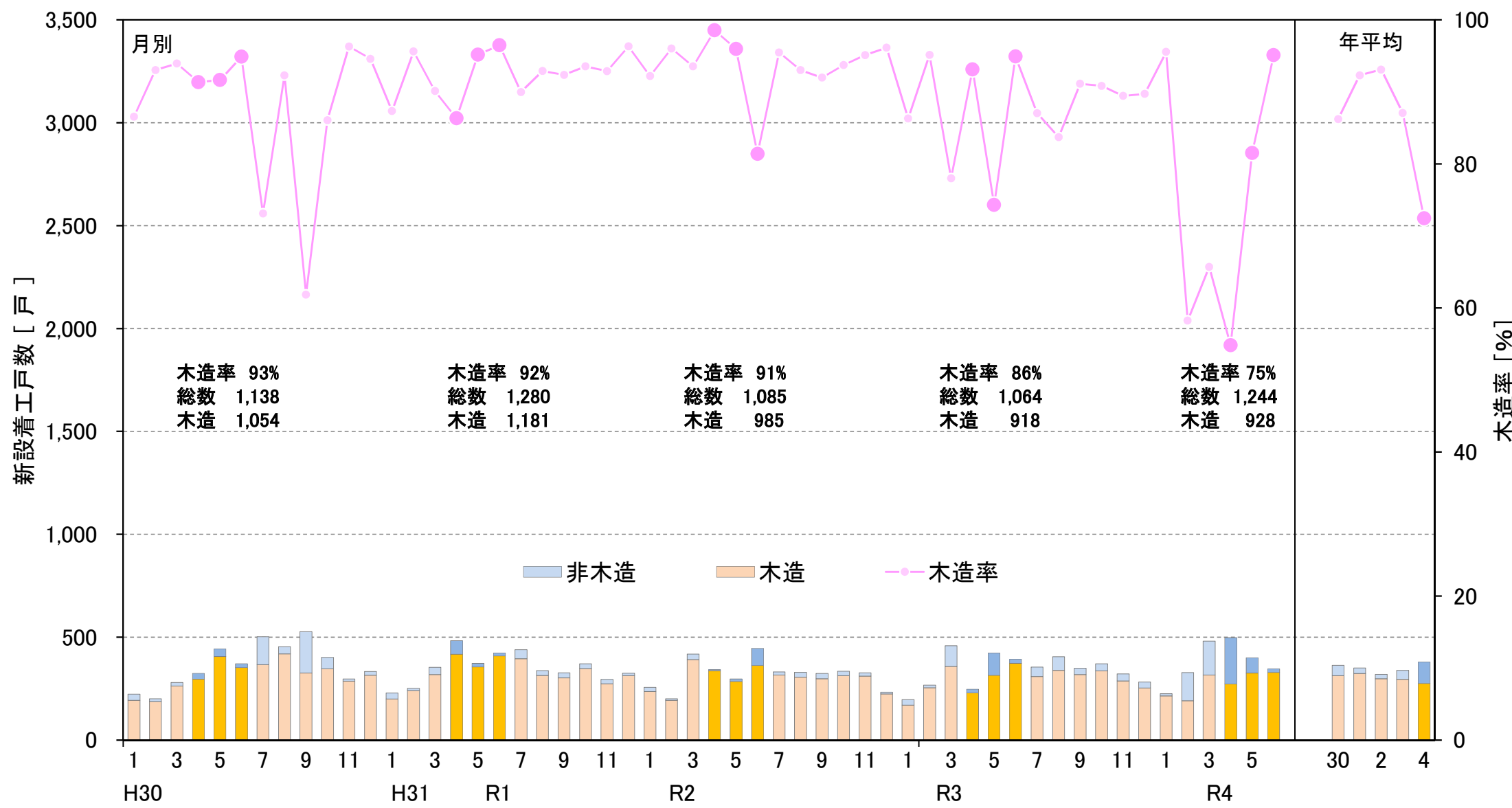
○ 宮城県の令和4年4～6月期の新設住宅着工数は、去年同期より220戸増加した。
この期間の木造は6戸増加し、木造率は4%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 秋田県の新設住宅着工戸数の推移（平成30年1月～令和4年6月）

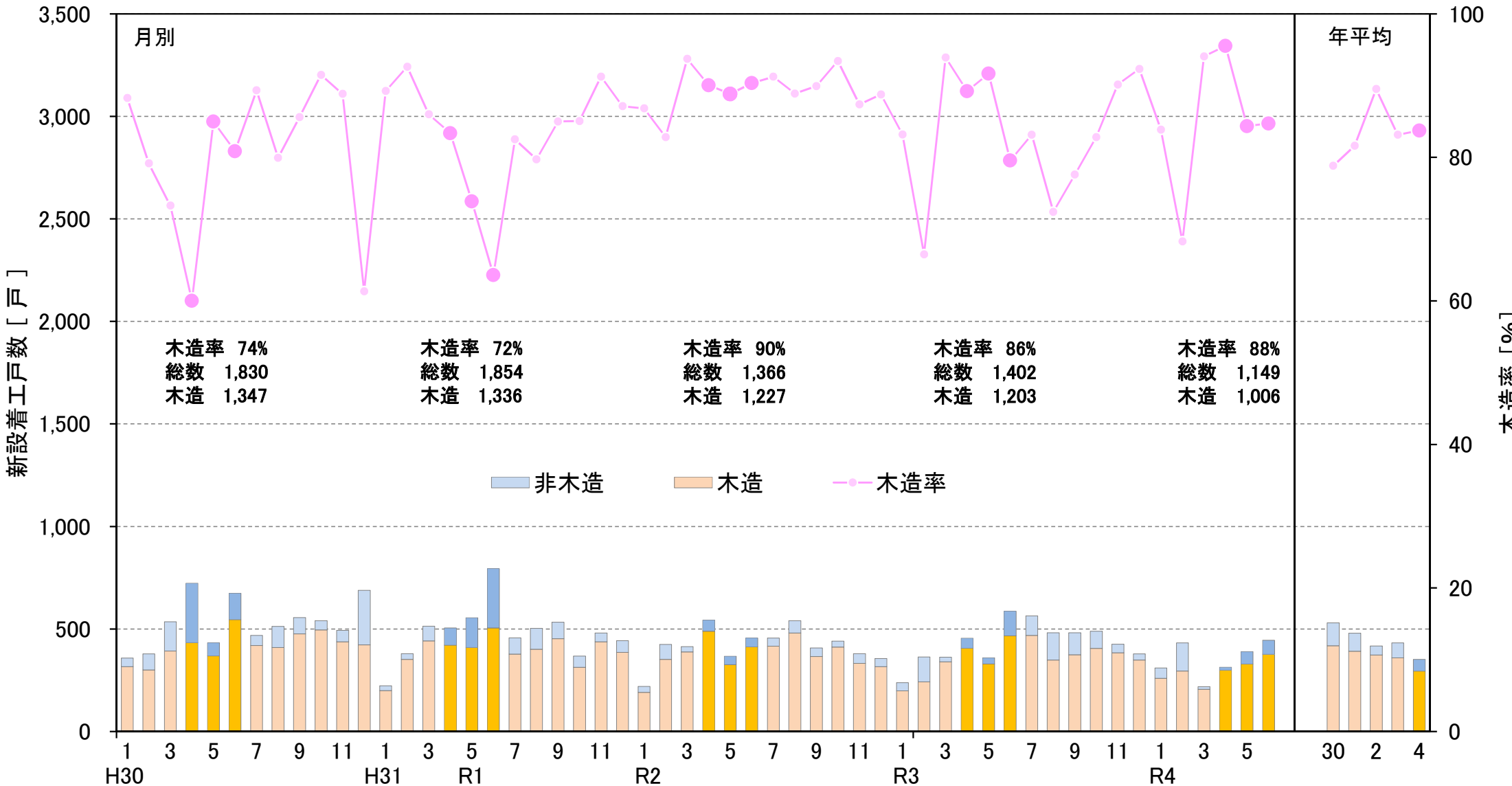
○ 秋田県の令和4年4～6月期の新設住宅着工数は、昨年同期より180戸増加した。
この期間の木造は10戸増加し、木造率は11%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

山形県の新設住宅着工戸数の推移（平成30年1月～令和4年6月）

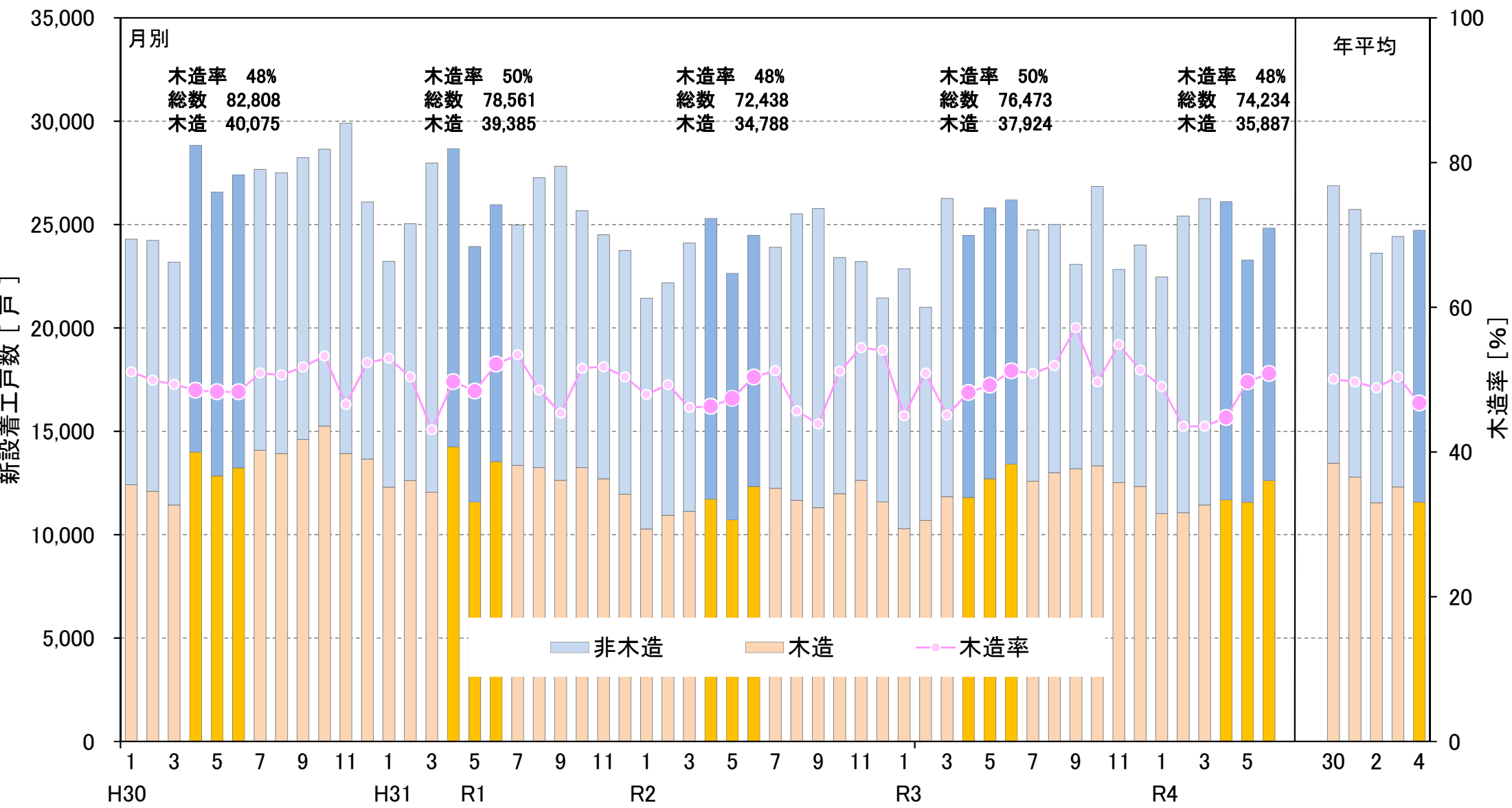
○ 山形県の令和4年4～6月期の新設住宅着工数は、去年同期より253戸減少した。
この期間の木造は197戸減少し、木造率は2%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 埼玉、千葉、東京、神奈川の新設住宅着工戸数の推移（平成30年1月～令和4年6月）

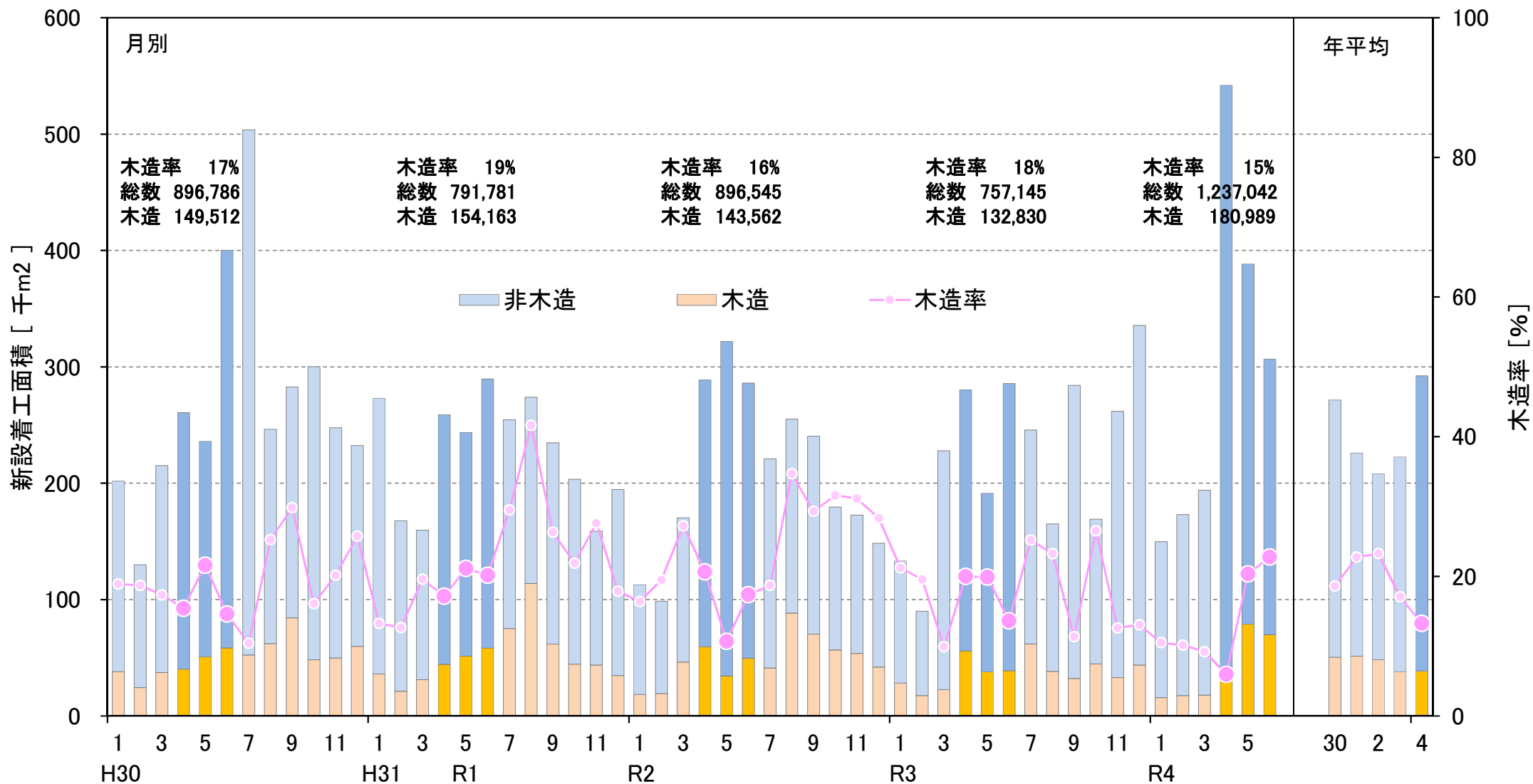
○ 関東主要都市の令和4年4～6月期の新設住宅着工数は、昨年同期より2,239戸減少した。
この期間の木造は2,037戸減少し、木造率は2%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

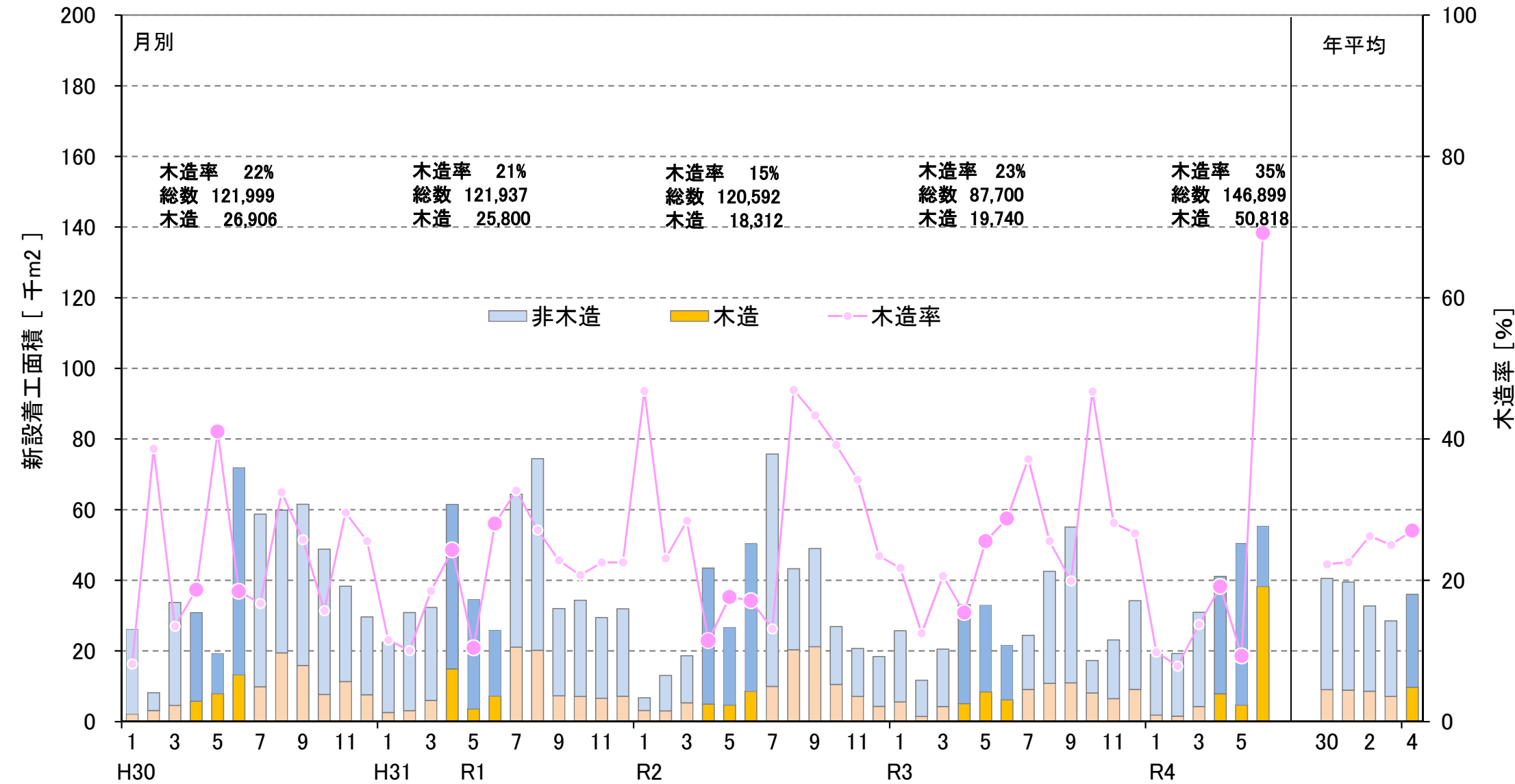
■ 東北森林管理局管内5県の新設産業用建築物着工面積の推移（平成30年1月～令和4年6月）

○ 東北5県の令和4年4～6月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より479,897㎡増加した。
この期間の木造は昨年同期より48,159㎡増加し、木造率は3%減少した。



青森県の新設産業用建築物着工面積の推移（平成30年1月～令和4年6月）

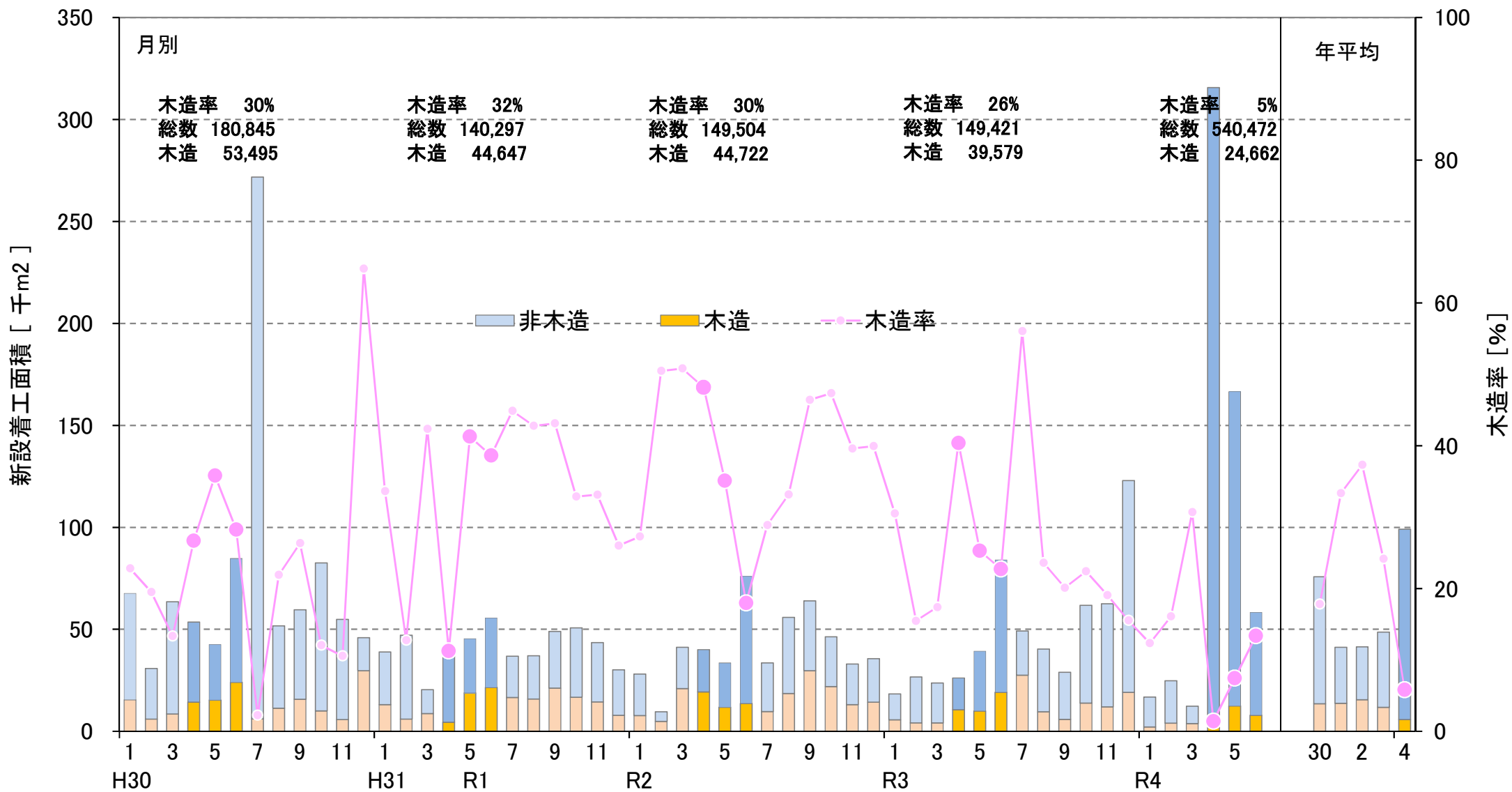
○ 青森県の令和4年4～6月期の新設産業用建築物着面積は、去年同期より59,199㎡増加した。
この期間の木造は31,078㎡増加し、木造率は12%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 岩手県の新設産業用建築物着工面積の推移（平成30年1月～令和4年6月）

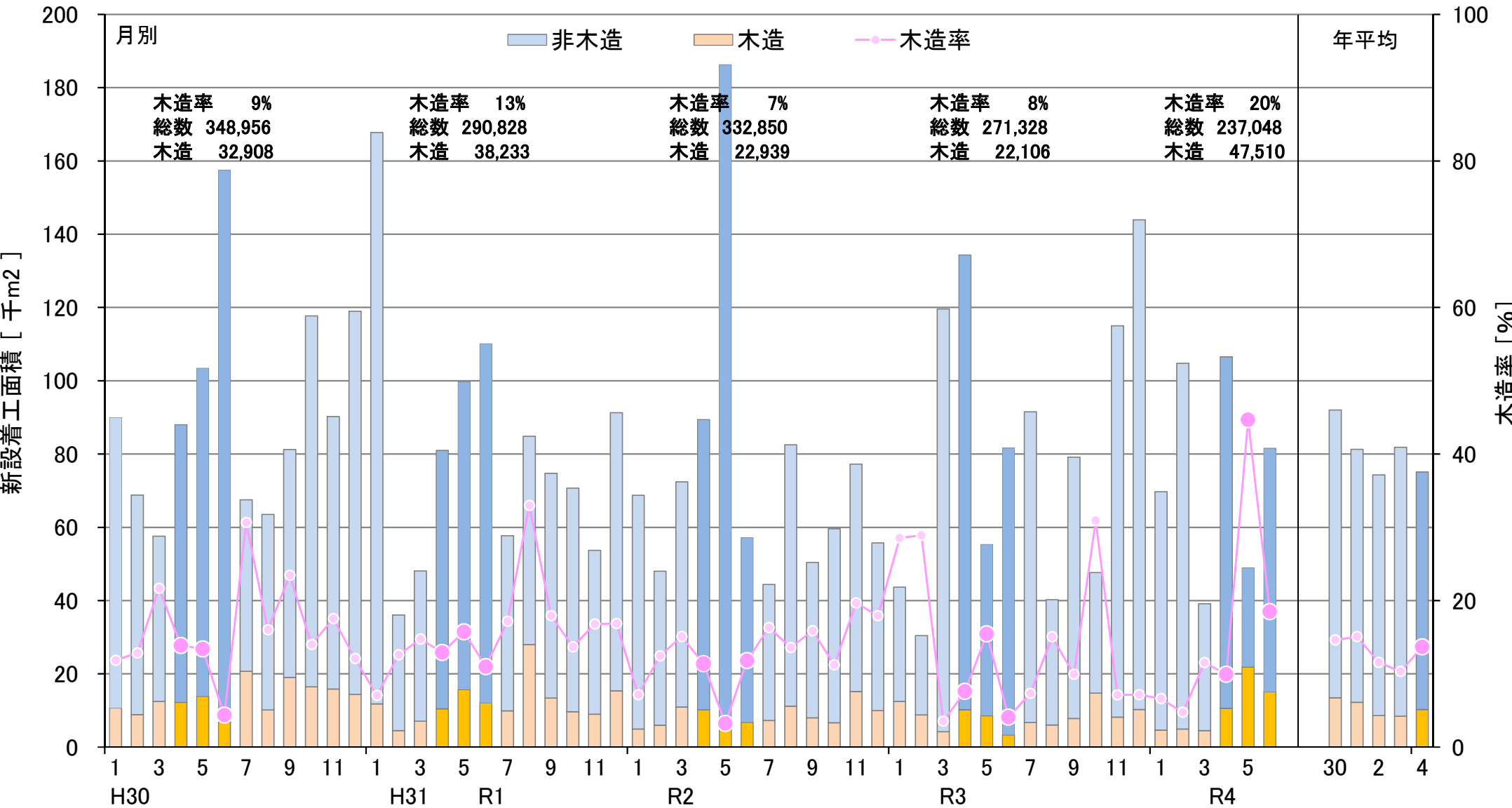
○ 岩手県の令和4年4～6月期の新設産業用建築物着工面積は、去年同期より391,051㎡増加した。
この期間の木造は14,917㎡減少し、木造率は21%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 宮城県の新設産業用建築物着工面積の推移（平成30年1月～令和4年6月）

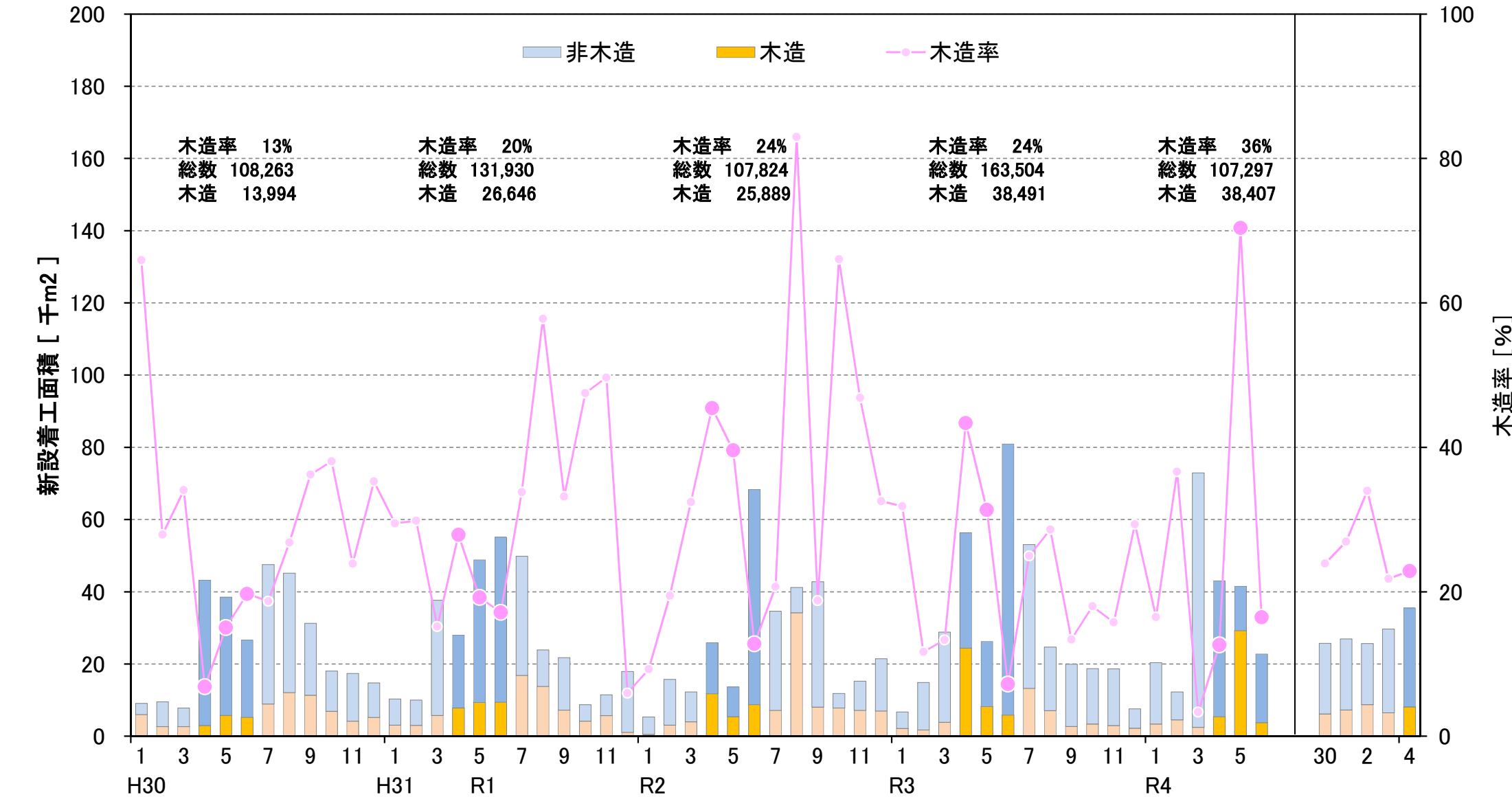
○ 宮城県の令和4年4～6月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より34,280㎡減少した。
この期間の木造は25,404㎡増加し、木造率は12%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 秋田県の新設産業用建築物着工面積の推移（平成30年1月～令和4年6月）

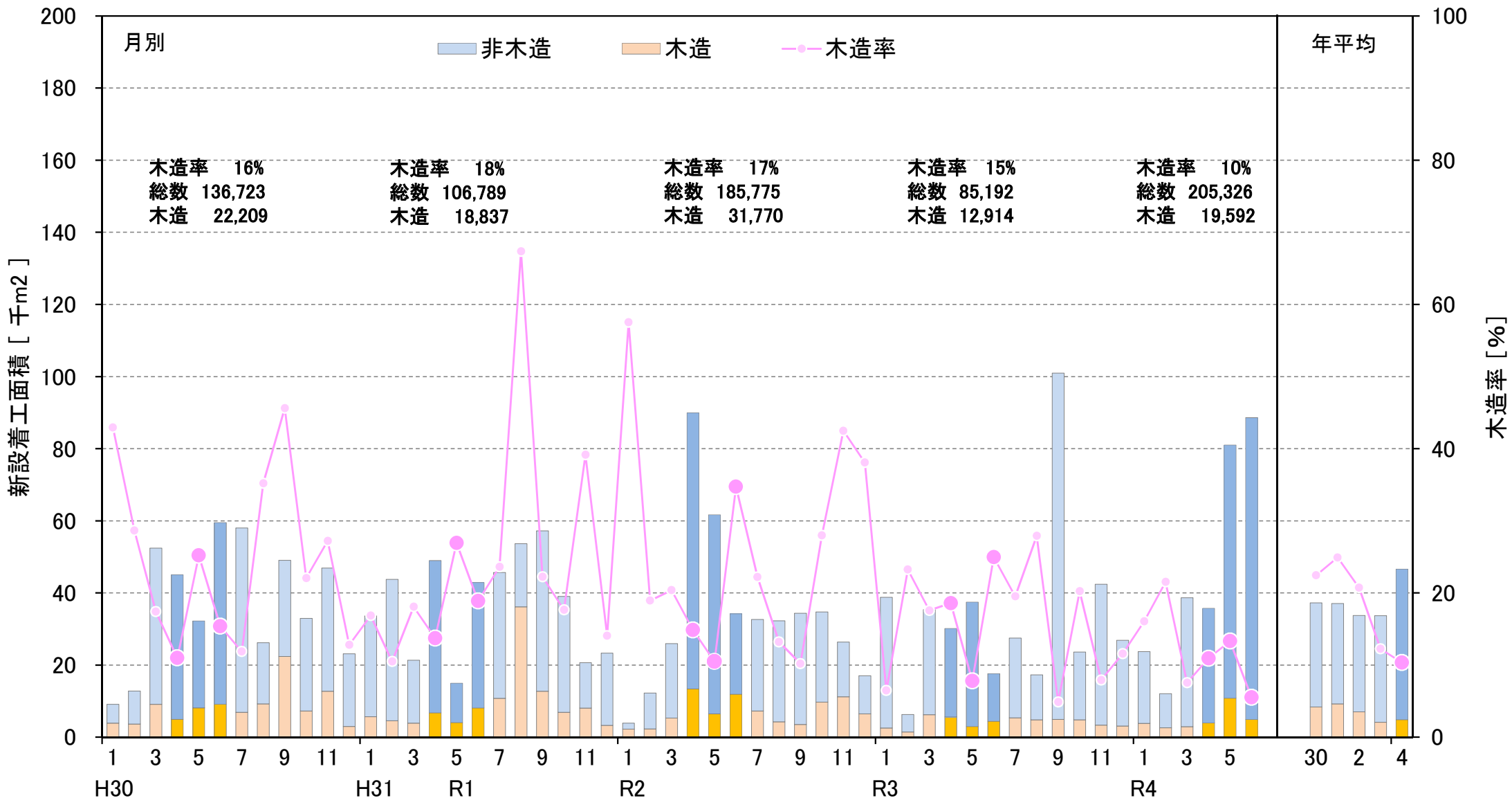
○ 秋田県の令和4年4～6月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より56,207㎡減少した。
この期間の木造は84㎡減少し、木造率は12%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

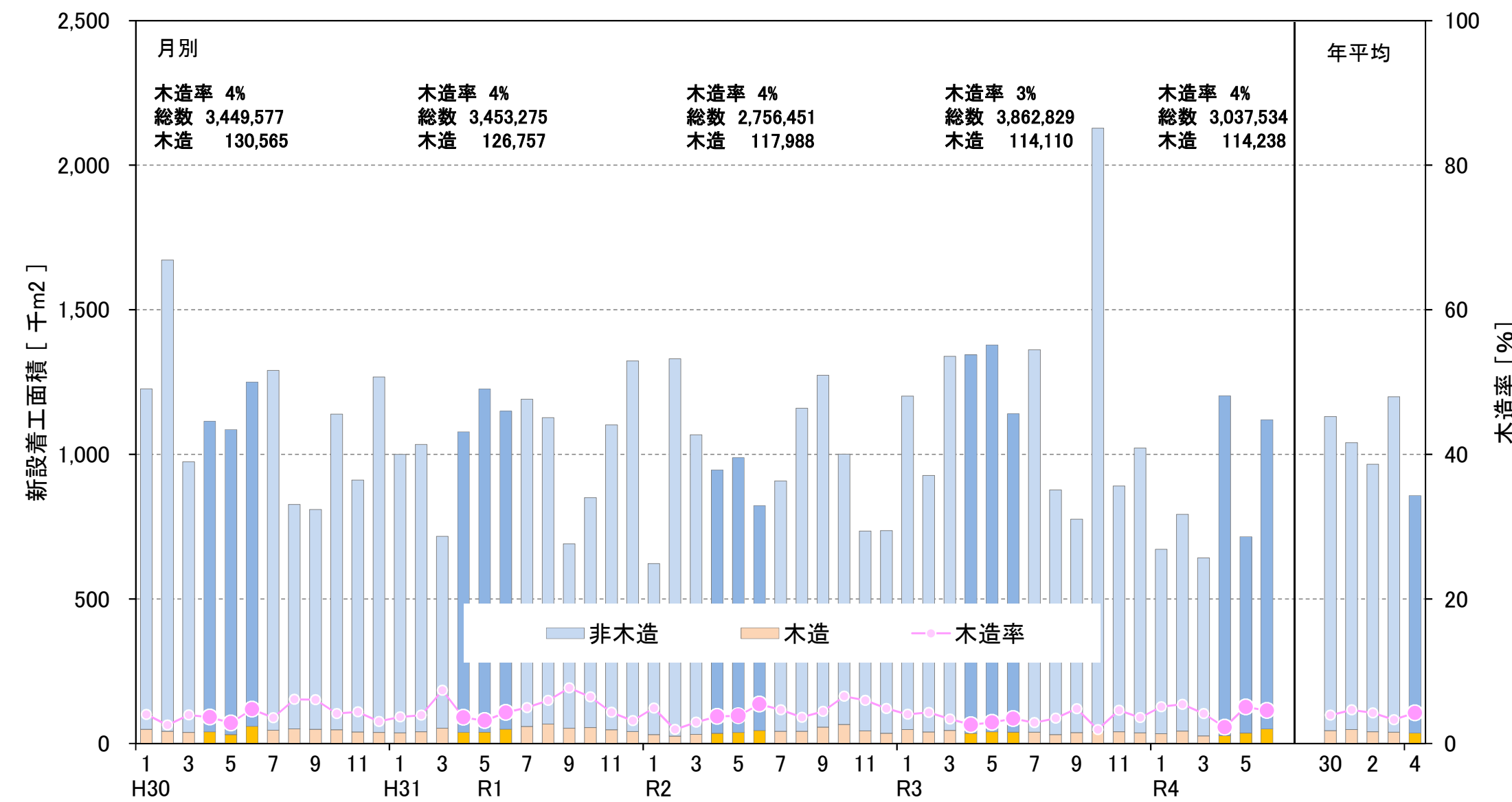
■ 山形県の新設産業用建築物着工面積の推移（平成30年1月～令和4年6月）

○ 山形県の令和4年4～6月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より120,134㎡増加した。
この期間の木造は6,678㎡増加し、木造率は5%減少した。



■ 埼玉、千葉、東京、神奈川の新設産業用建築物着工面積の推移（平成30年1月～令和4年6月）

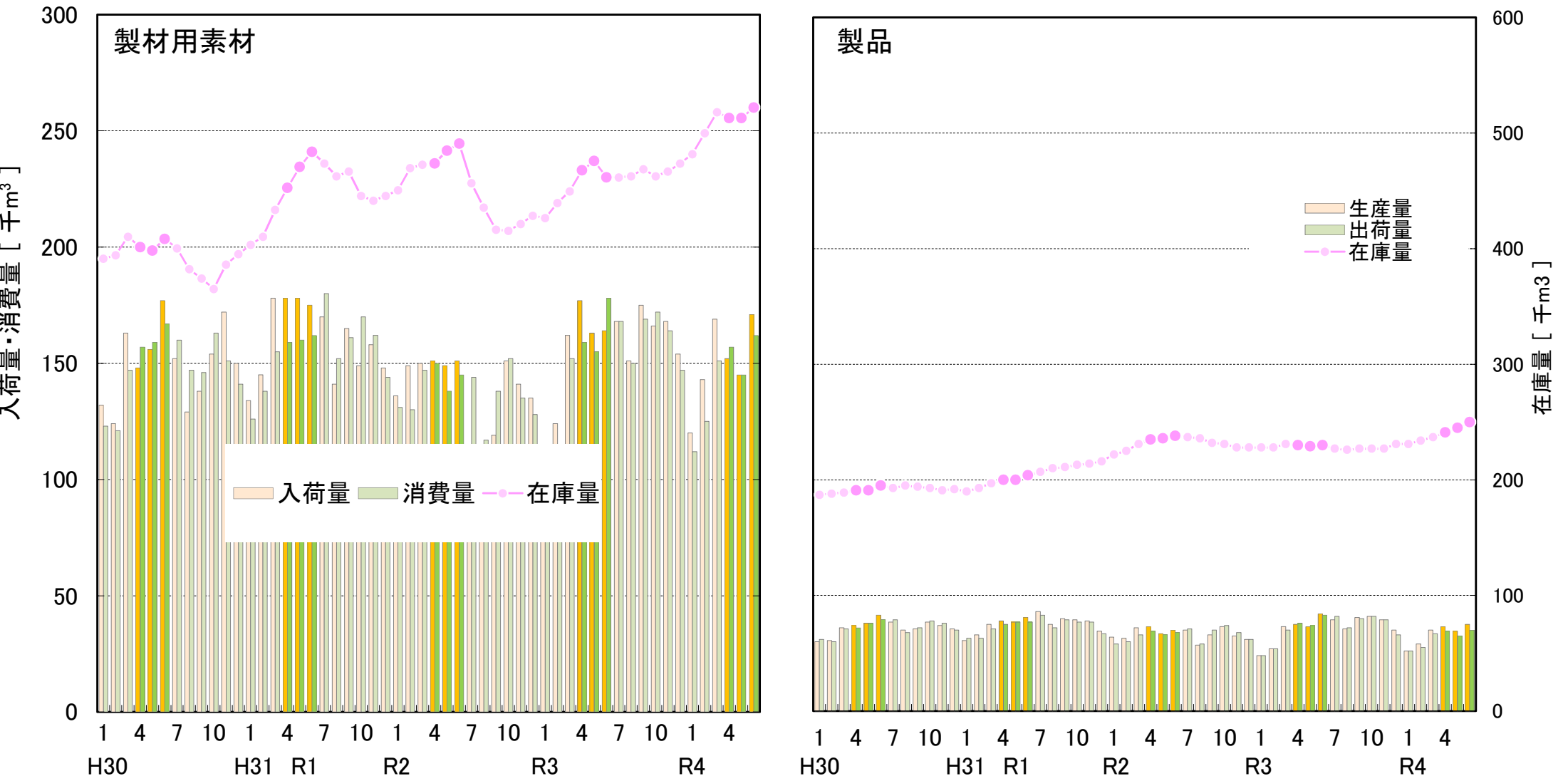
○ 関東主要都市の令和4年4～6月期の新設産業用建築物着工面積は、去年同期より825,295㎡減少した。
この期間の木造は128㎡増加し、木造率は1%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

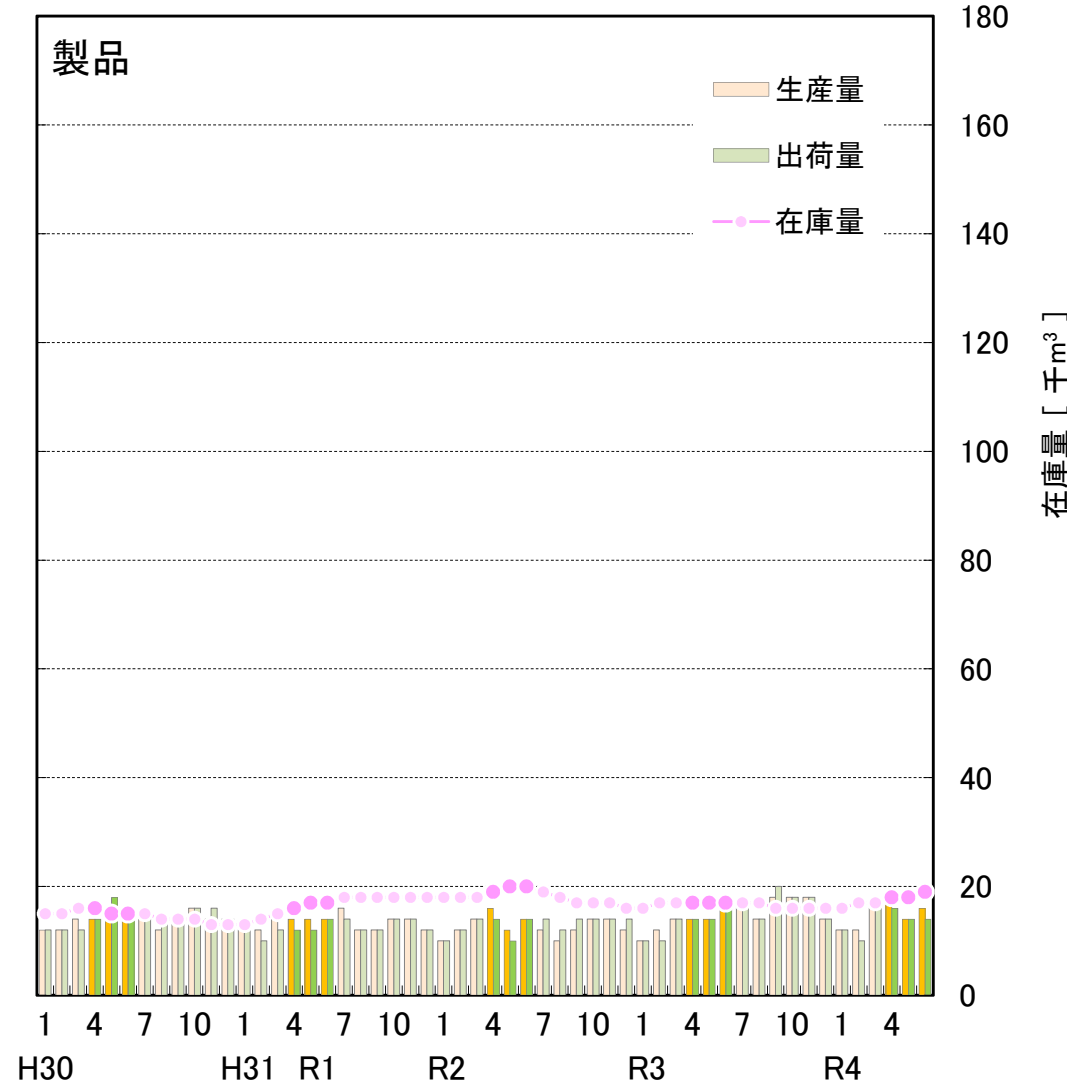
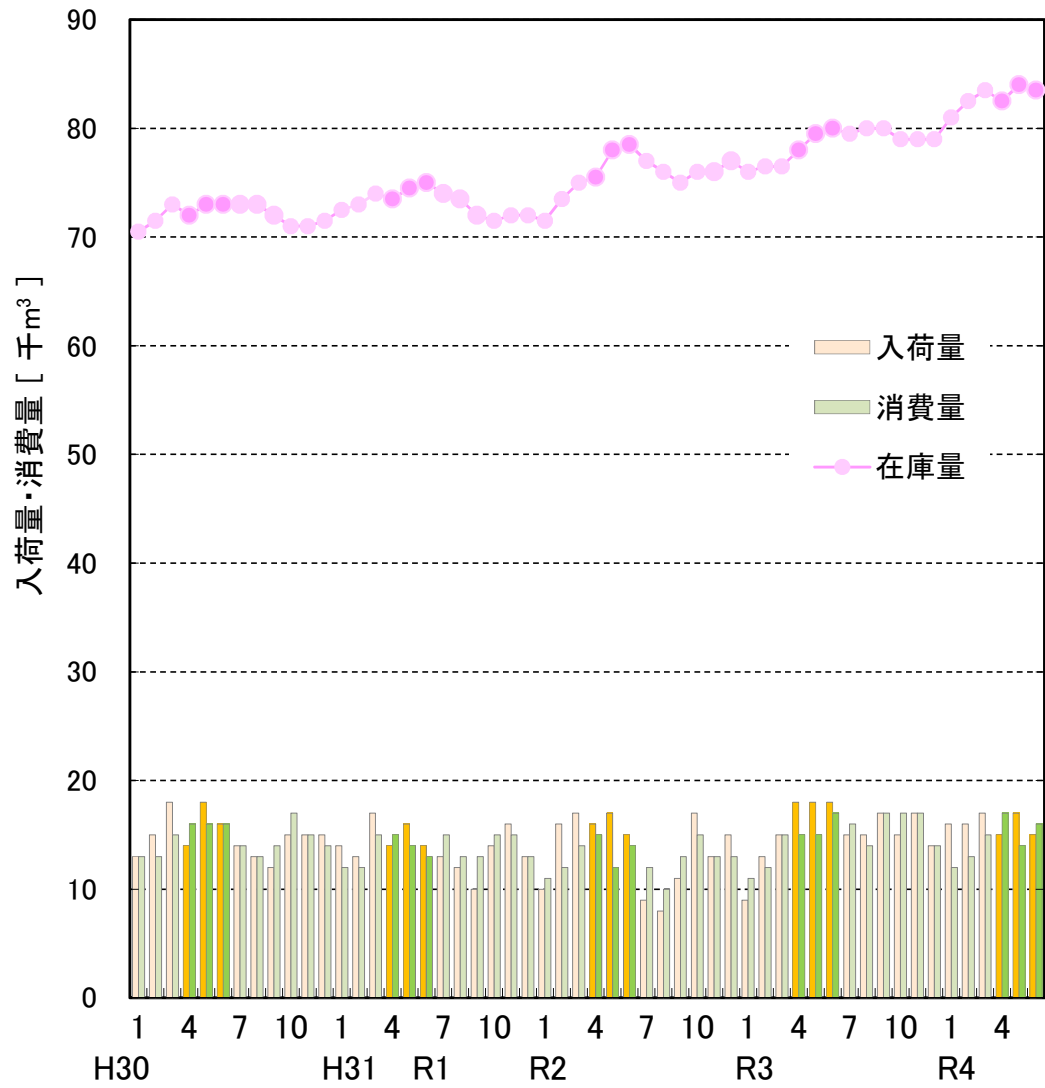
■ 東北5県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年6月）

- 東北5県の製材用素材の令和4年4～6月の入荷量は昨年同期比－7%、消費量は－6%、在庫量は6月比＋13%。
- 製材品の令和4年4～6月の生産量は昨年同期比－6%、出荷量は－12%、在庫量は6月比＋9%。



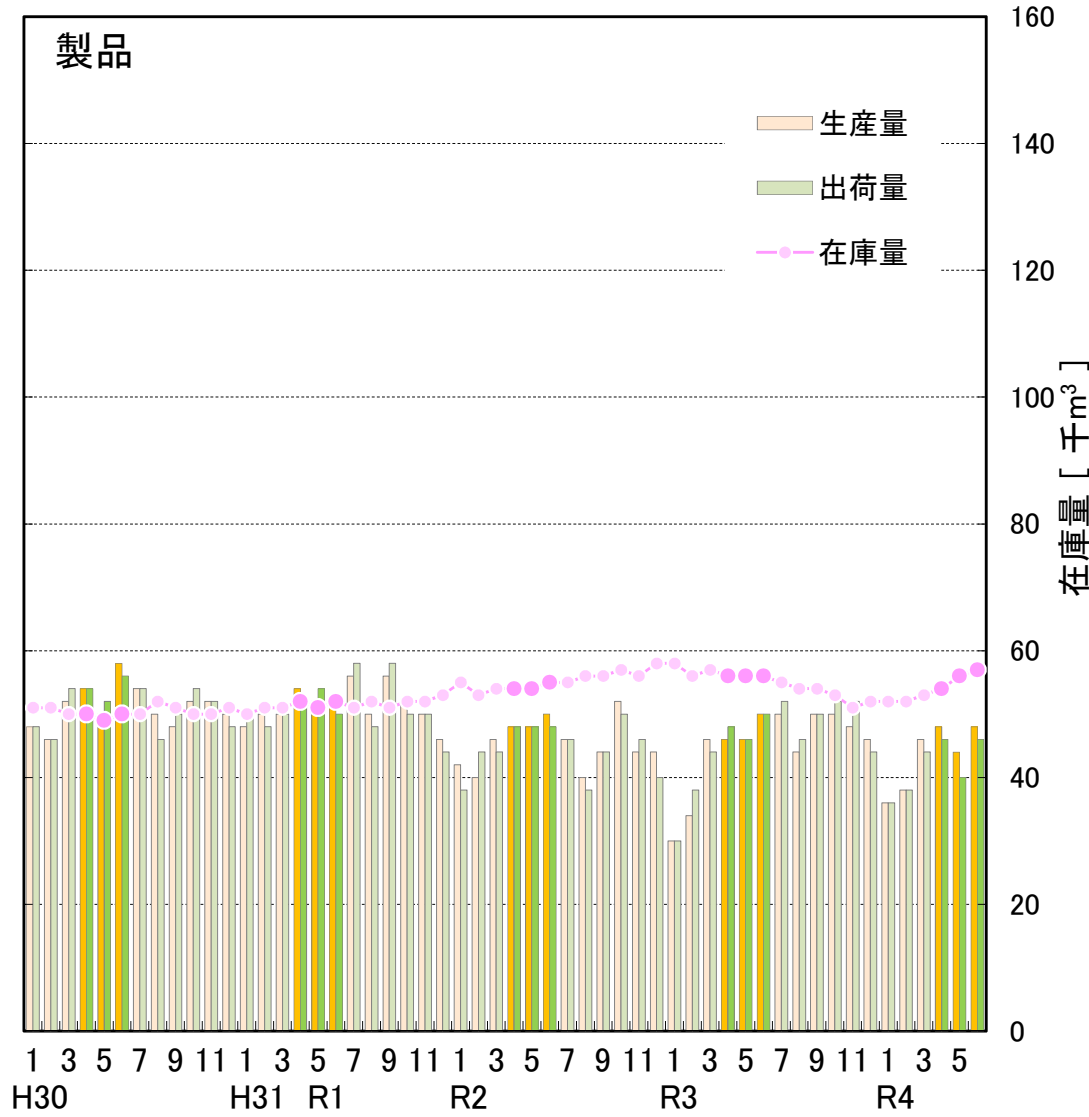
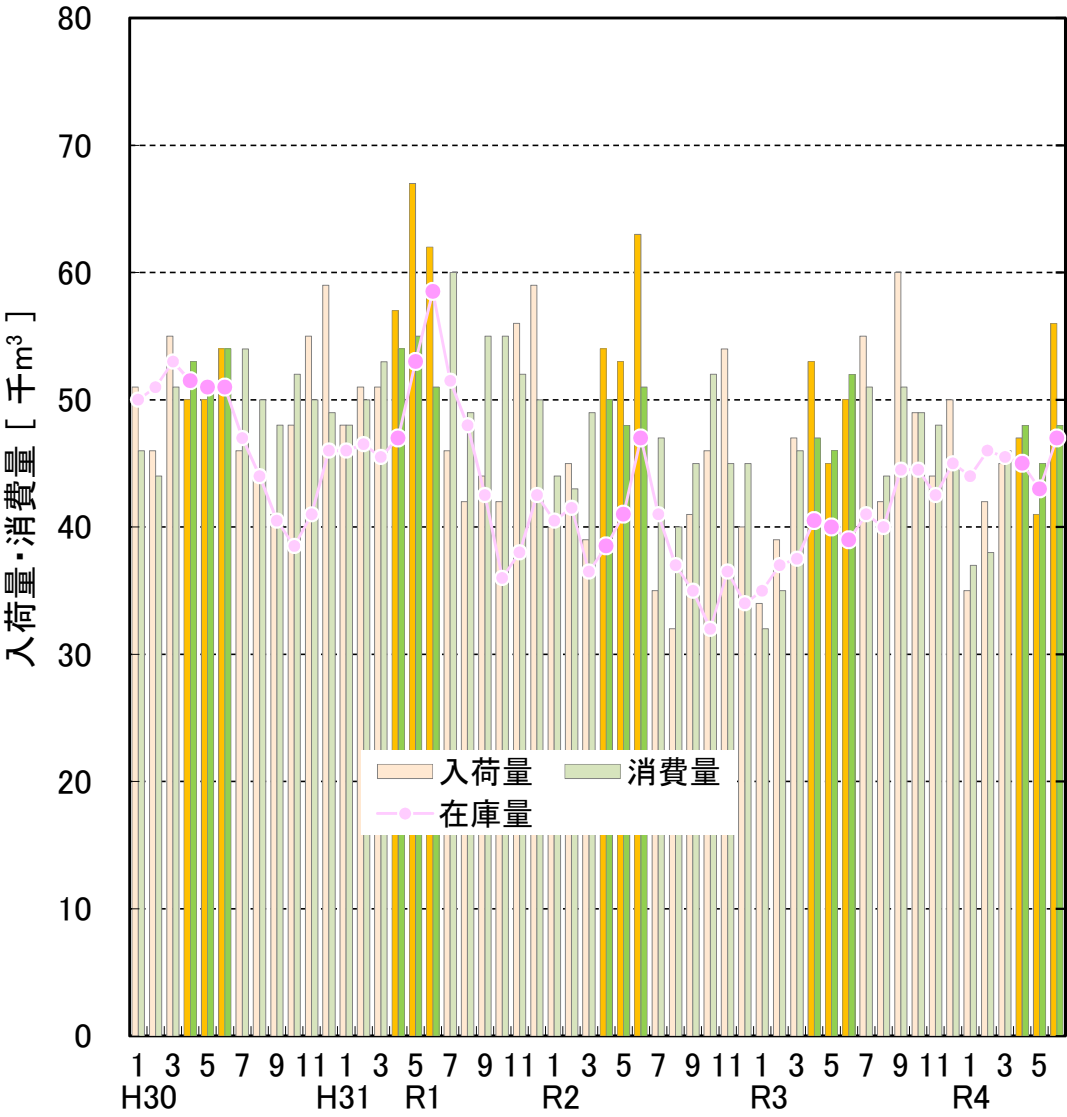
■ 青森県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年6月）

- 製材用素材の令和4年4～6月の入荷量は去年同期比－13%、消費量は±0%、在庫量は6月比＋4%。
- 製材品の令和4年4～6月の生産量は去年同期比＋9%、出荷量は±0%、在庫量は6月比＋12%。



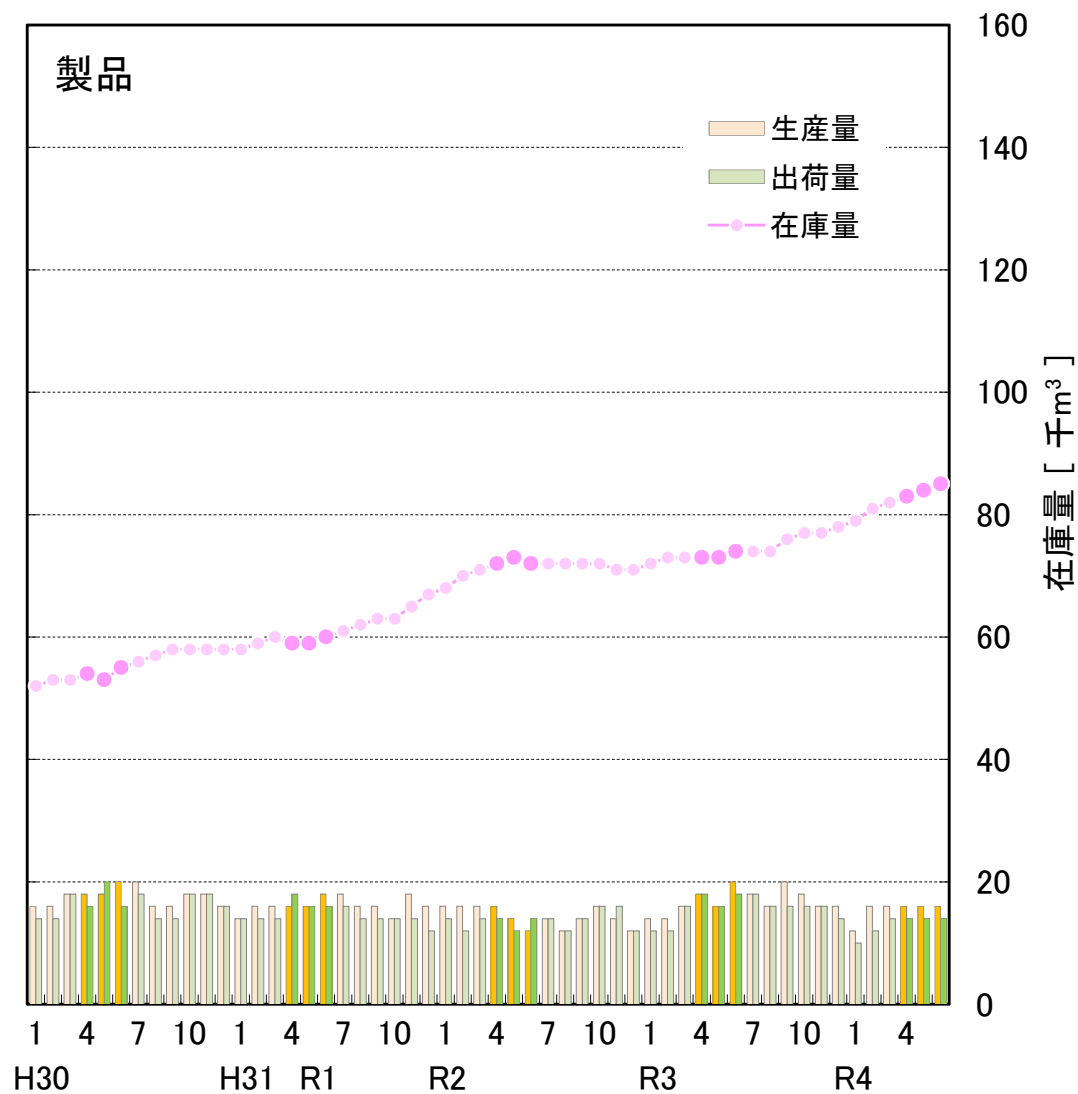
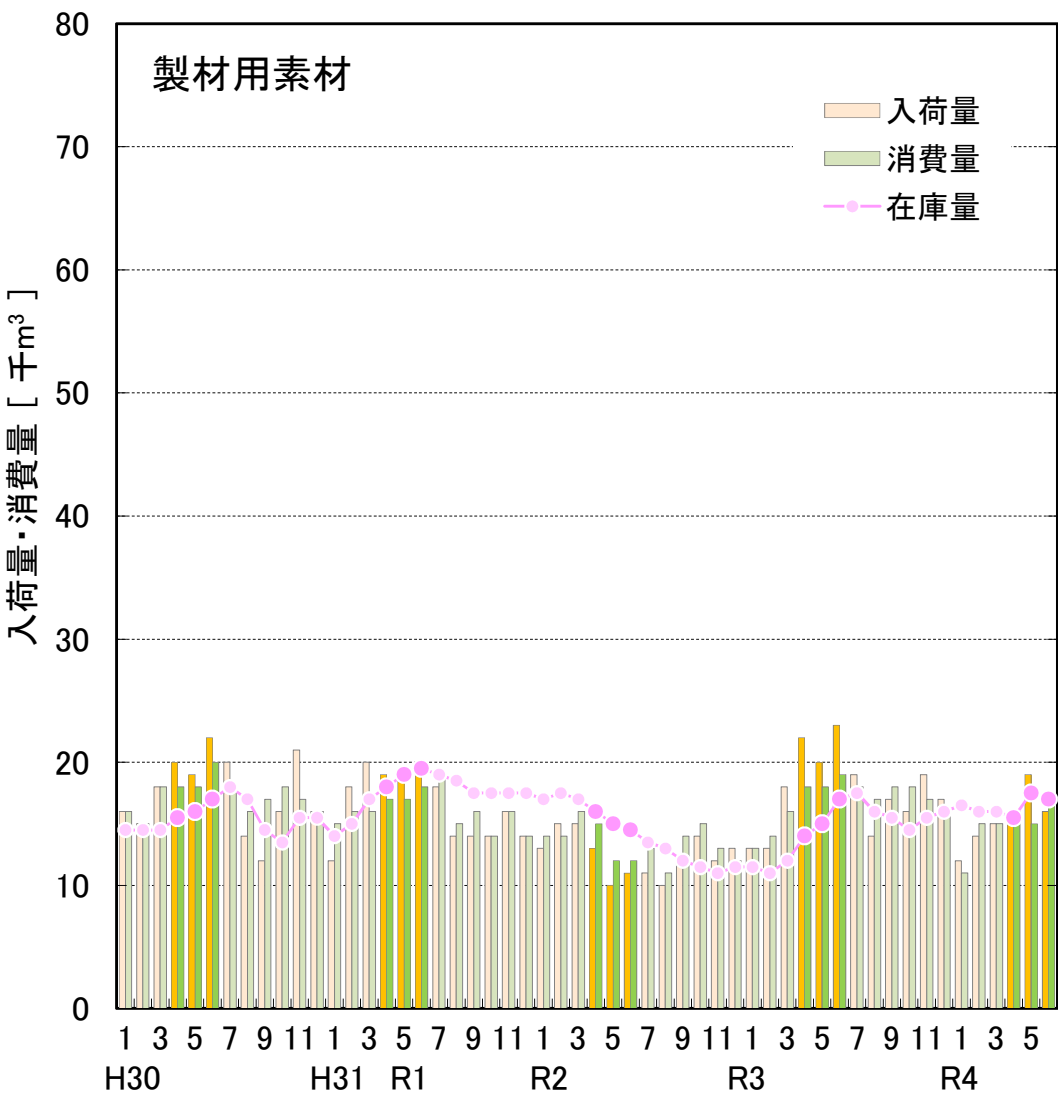
■ 岩手県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年6月）

- 製材用素材の令和4年4～6月の入荷量は去年同期比－3%、消費量は－3%、在庫量は6月比＋21%。
- 製材品の令和4年4～6月の生産量は去年同期比－1%、出荷量は－8%、在庫量は6月比＋2%。



■ 宮城県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年6月）

- 製材用素材の令和4年4～6月の入荷量は昨年同期比－23%、消費量は－13%、在庫量は6月比±0%。
○ 製材品の令和4年4～6月の生産量は昨年同期比－11%、出荷量は－19%、在庫量は6月比＋15%。

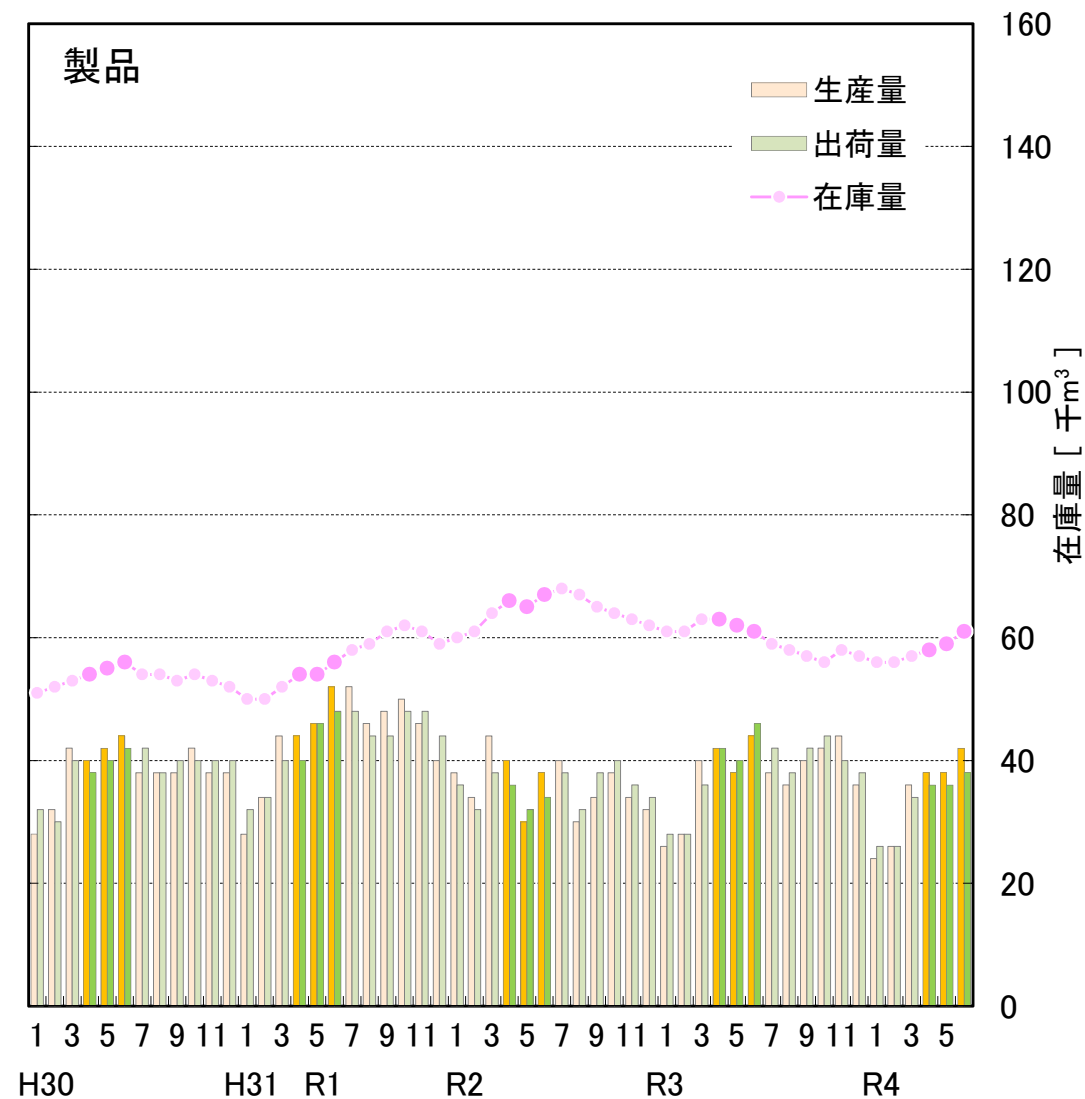
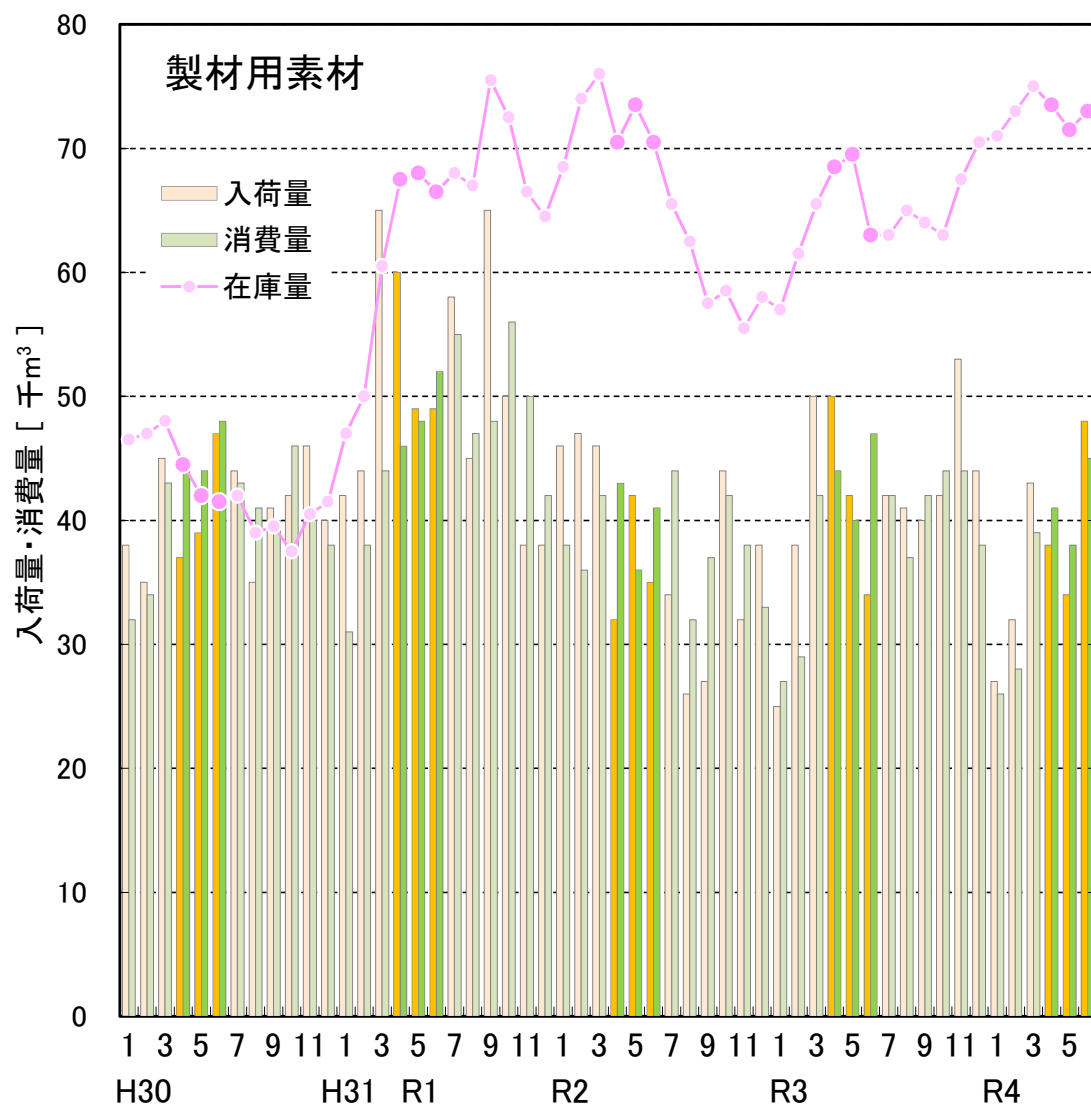


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

■ 秋田県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年6月）

- 製材用素材の令和4年4～6月の入荷量は去年同期比－5%、消費量は－5%、在庫量は6月比＋16%。
- 製材品の令和4年4～6月の生産量は去年同期比－5%、出荷量は－14%、在庫量は6月比±0%。

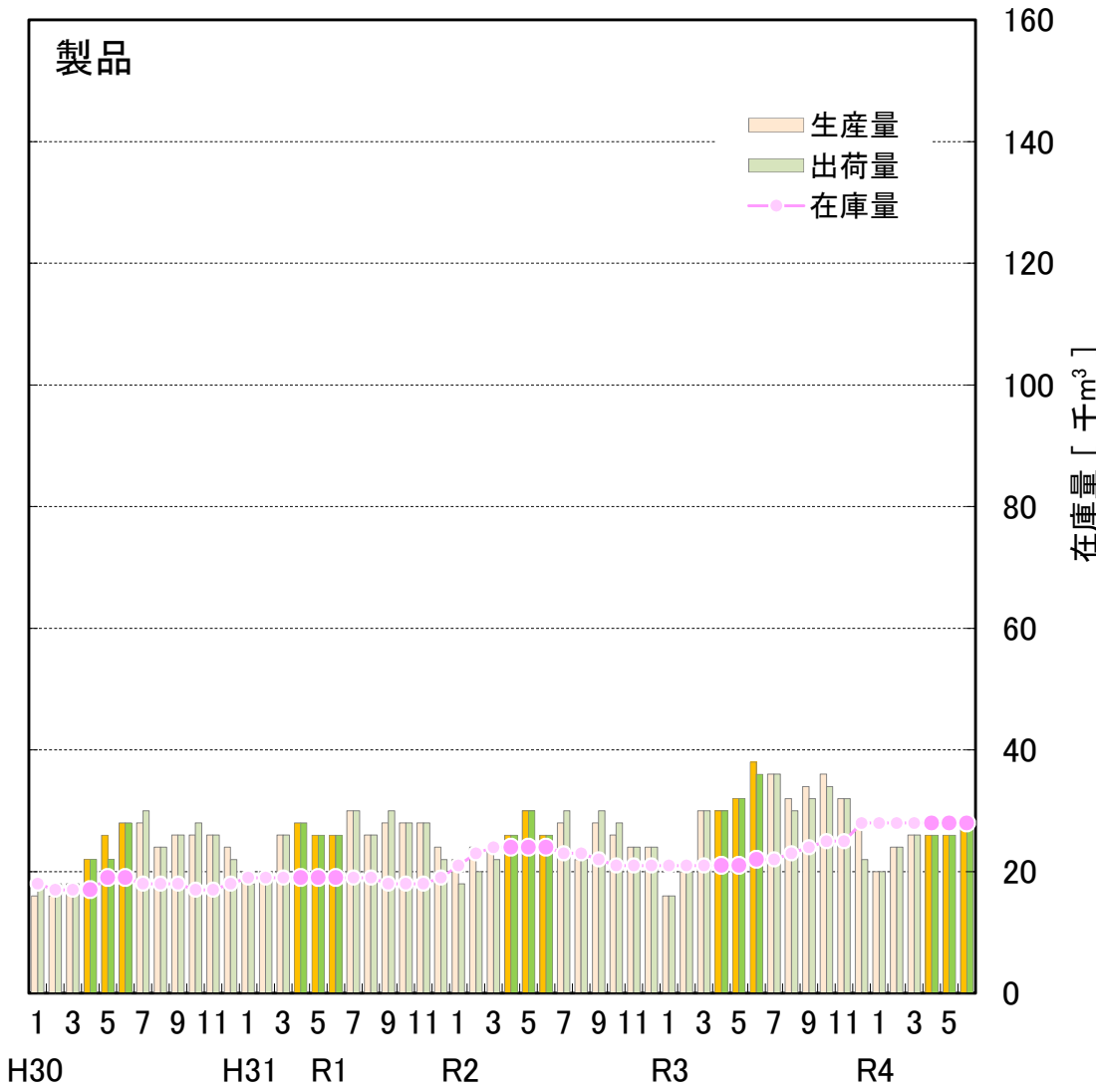
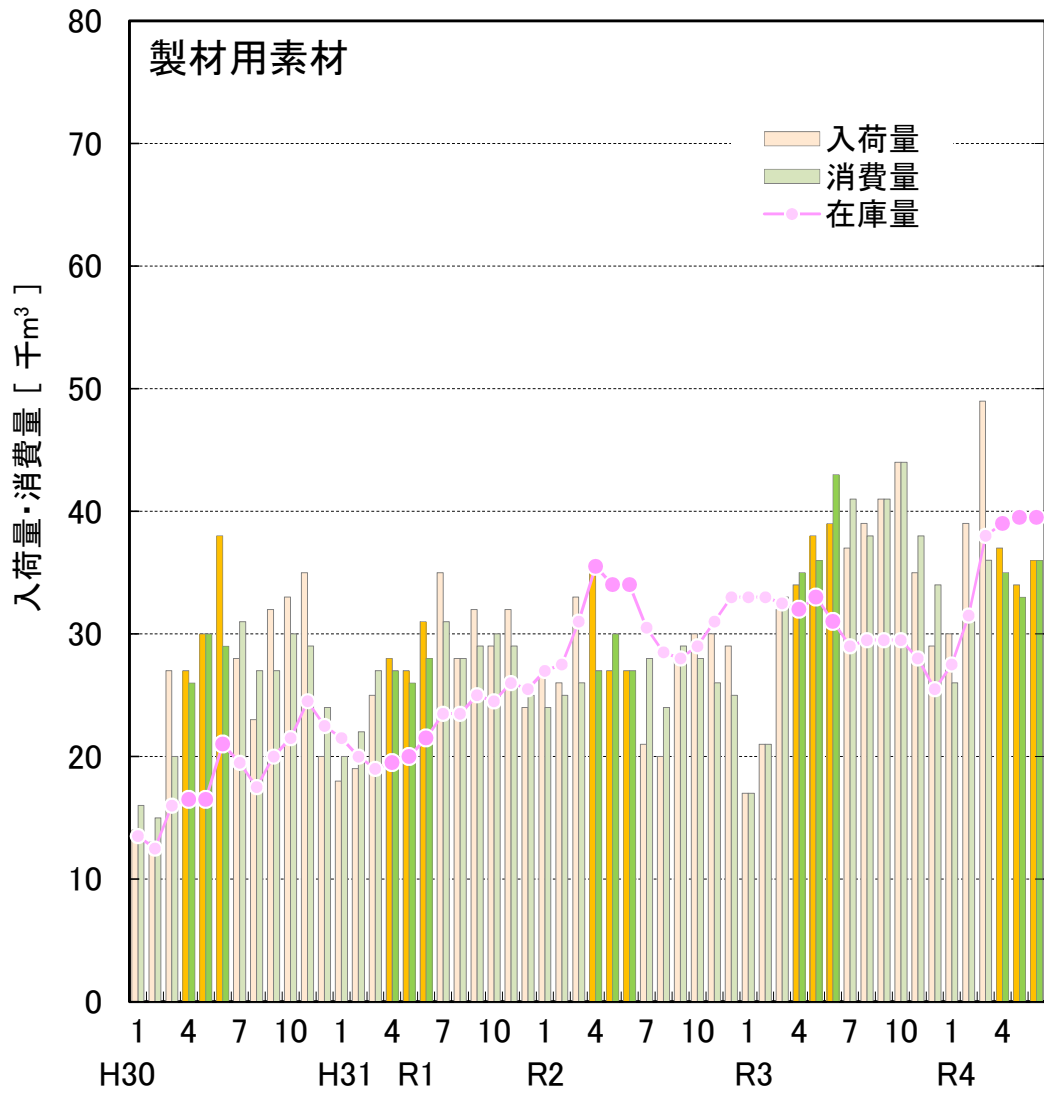


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

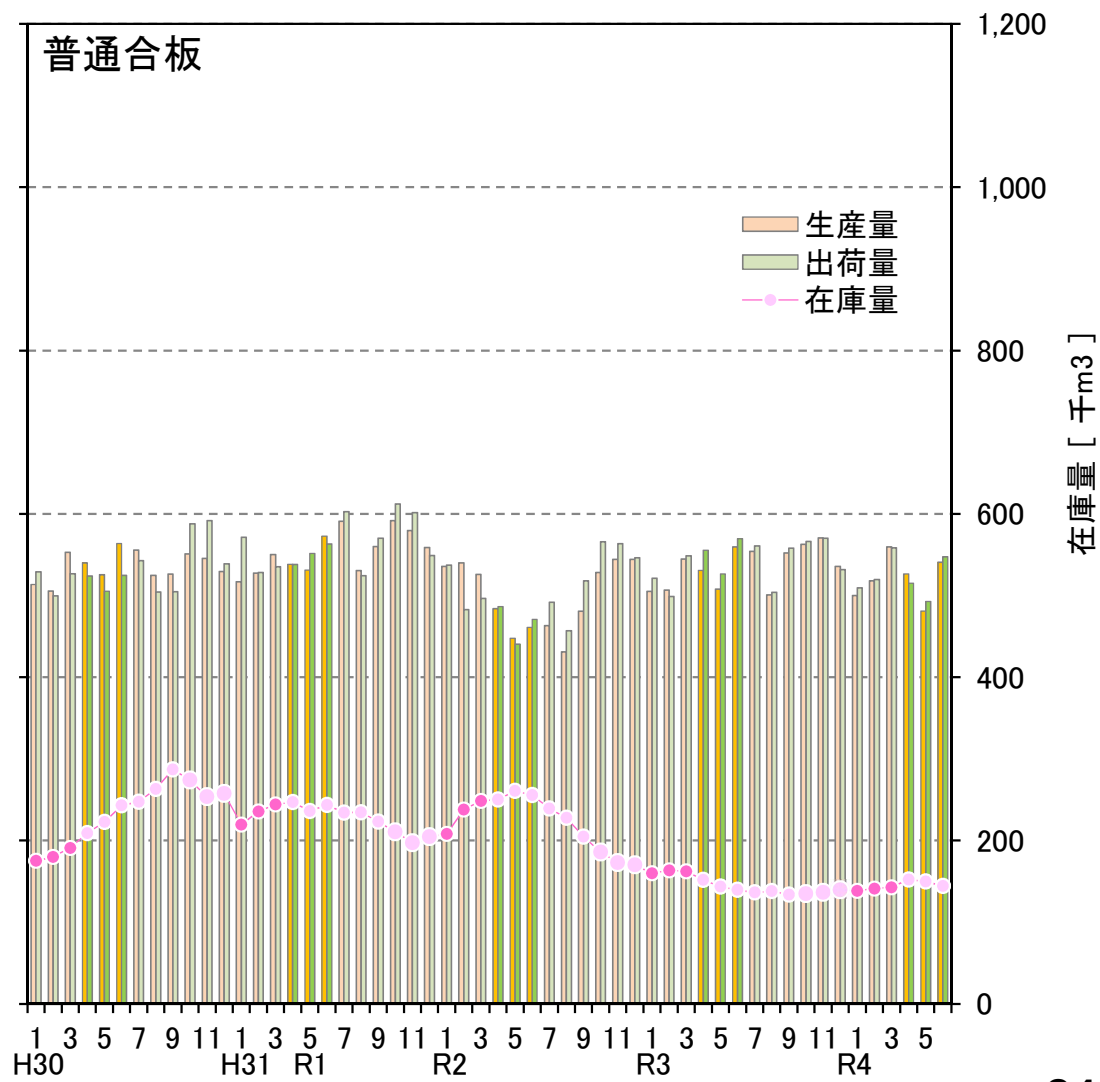
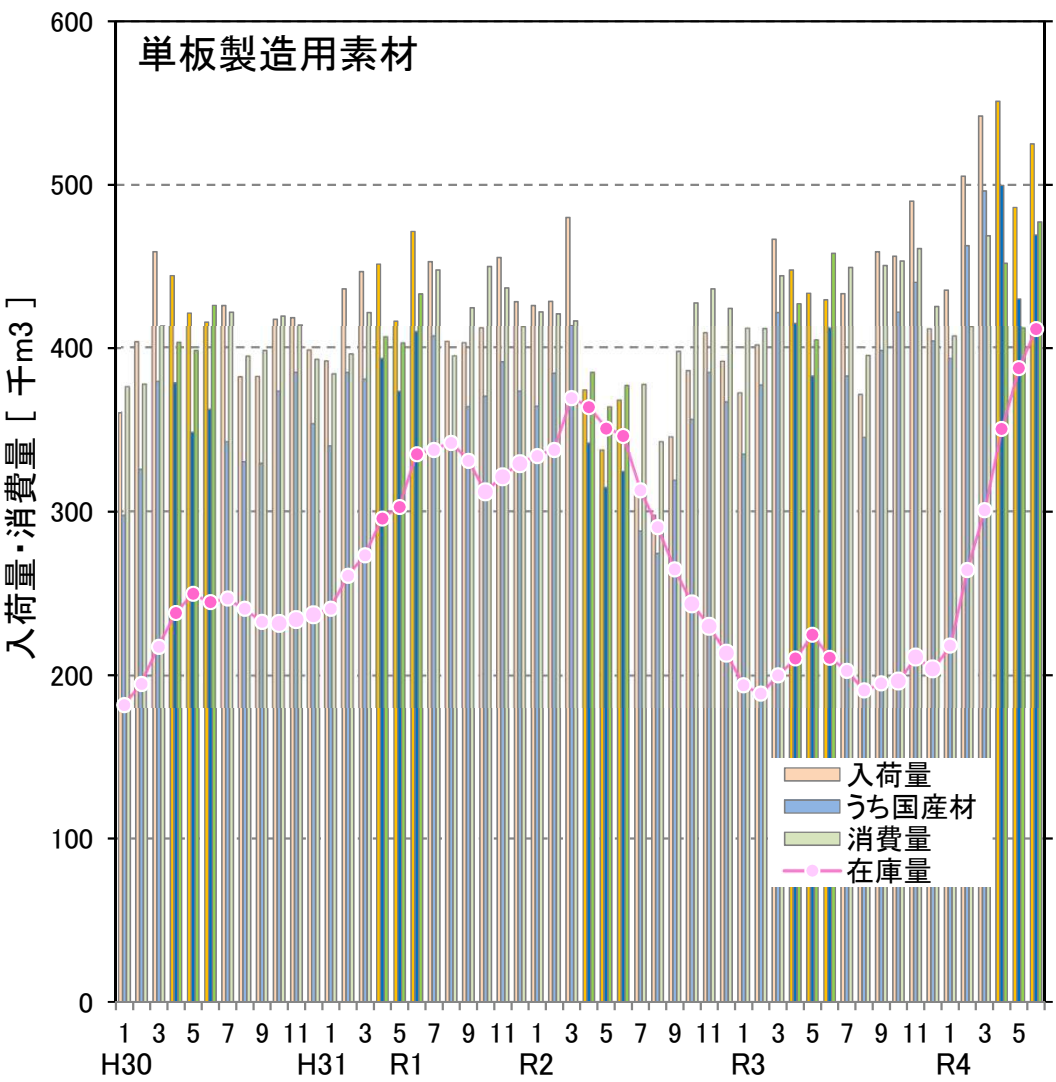
山形県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年6月）

- 製材用素材の令和4年4～6月の入荷量は昨年同期比－4%、消費量は－9%、在庫量は6月比＋27%。
- 製材品の令和4年4～6月の生産量は昨年同期比－20%、出荷量は－18%、在庫量は6月比＋27%。



■ 全国の単板製造用素材・普通合板の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年6月）

- 単板製造用素材の令和4年4～6月期の入荷量は昨年同期比＋19%、うち国産材は＋16%、消費量は＋4%、在庫量は6月比＋95%。
- 普通合板の令和4年4～6月期の生産量は昨年同期比－3%、出荷量は－6%、在庫量については6月比＋4%。

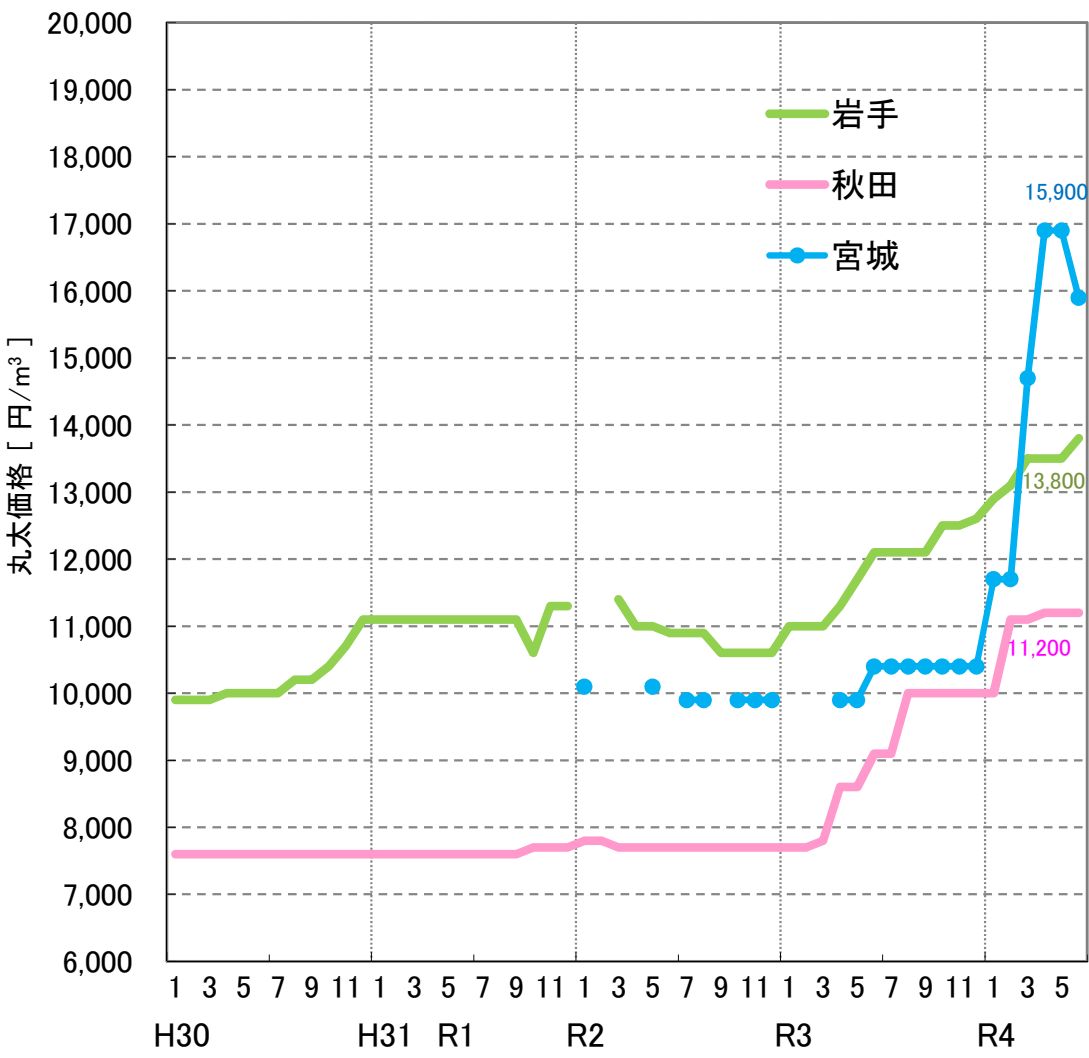


出典：農林水産省「合板統計」

■ すぎ丸太価格の推移 (平成30年1月～令和4年6月)

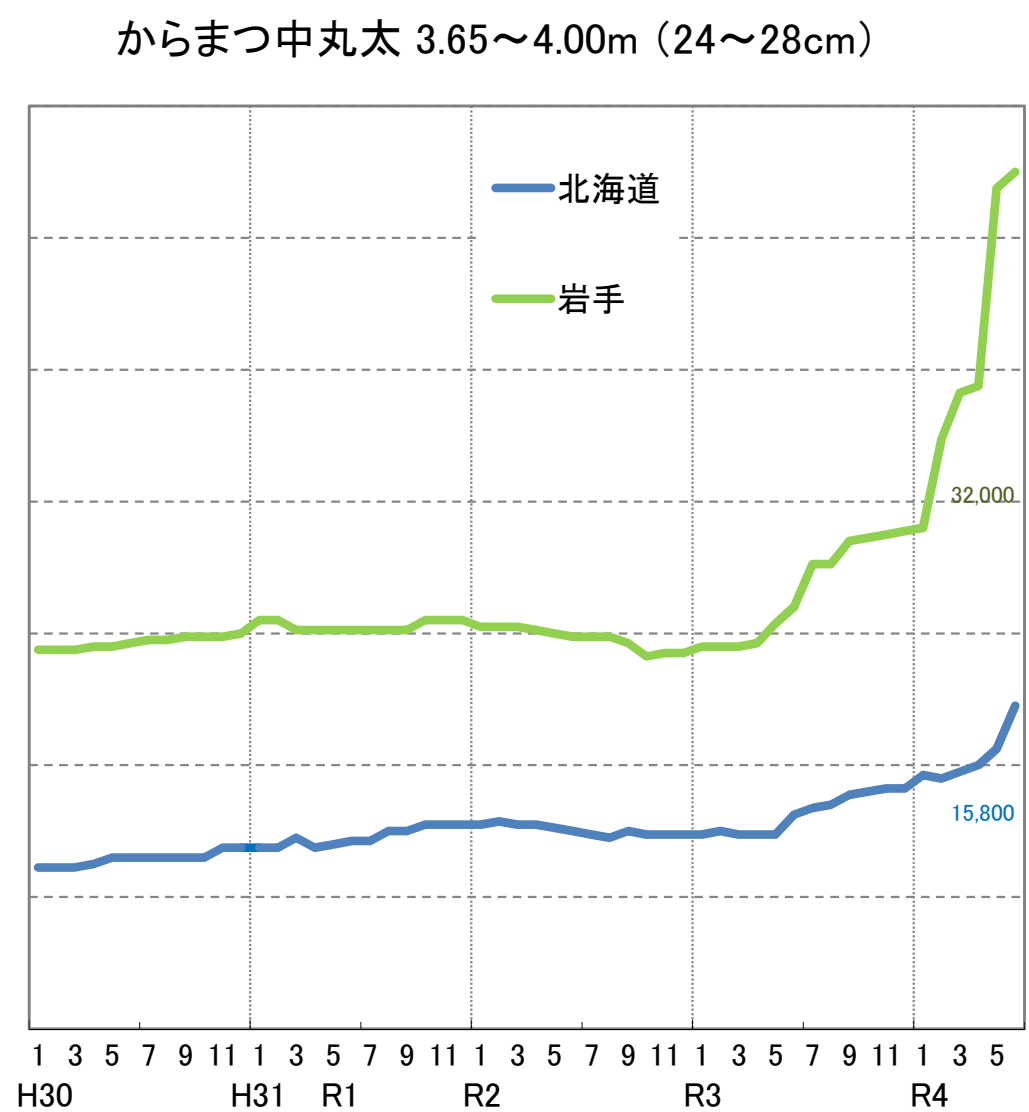
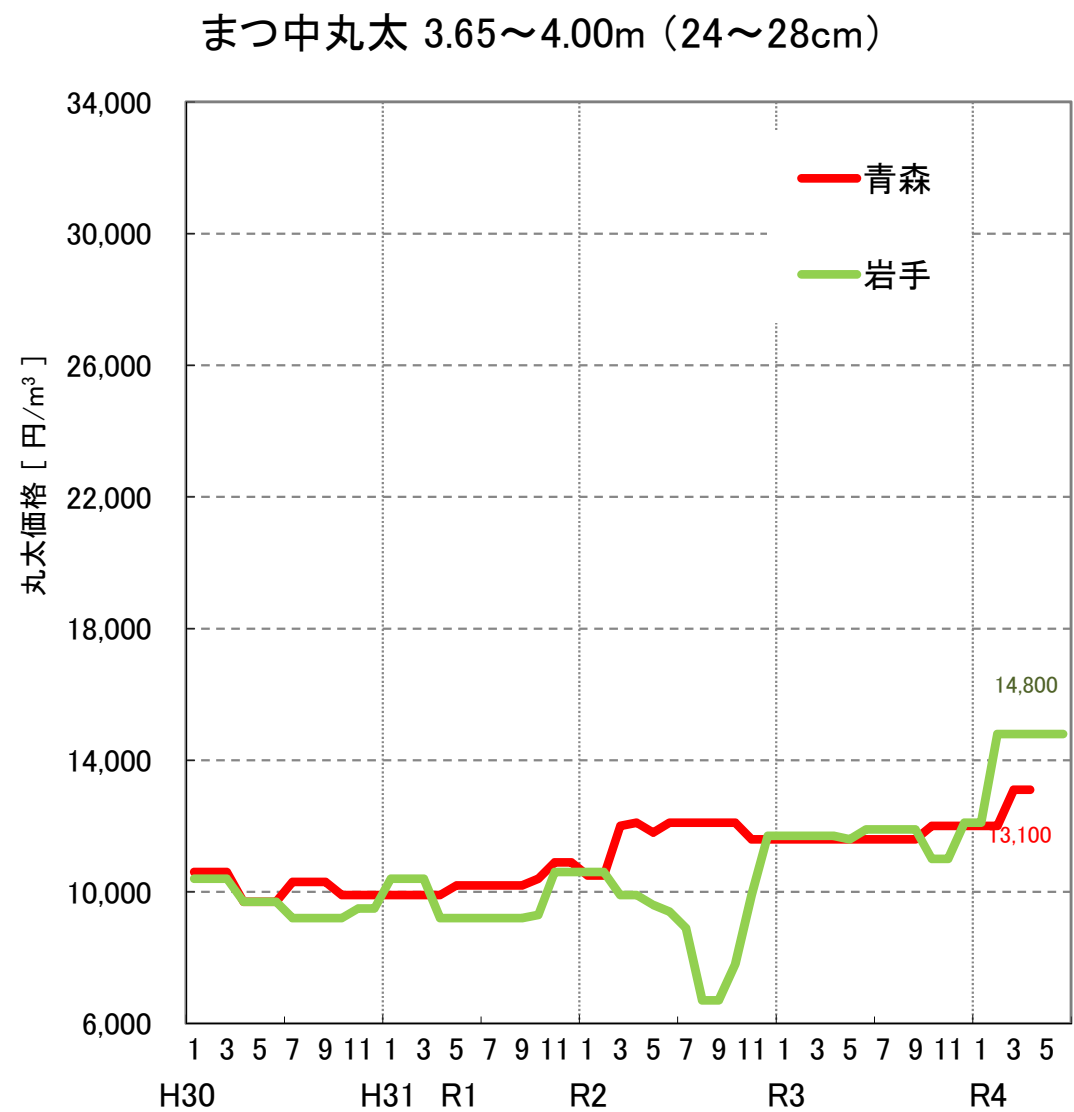
- すぎ小丸太価格は、岩手は強含み。
- すぎ中丸太価格は、岩手、秋田は強含み。

すぎ小丸太 3.65～4.00m (8～13cm)



■ まつ・からまつ丸太価格の推移（平成30年1月～令和4年6月）

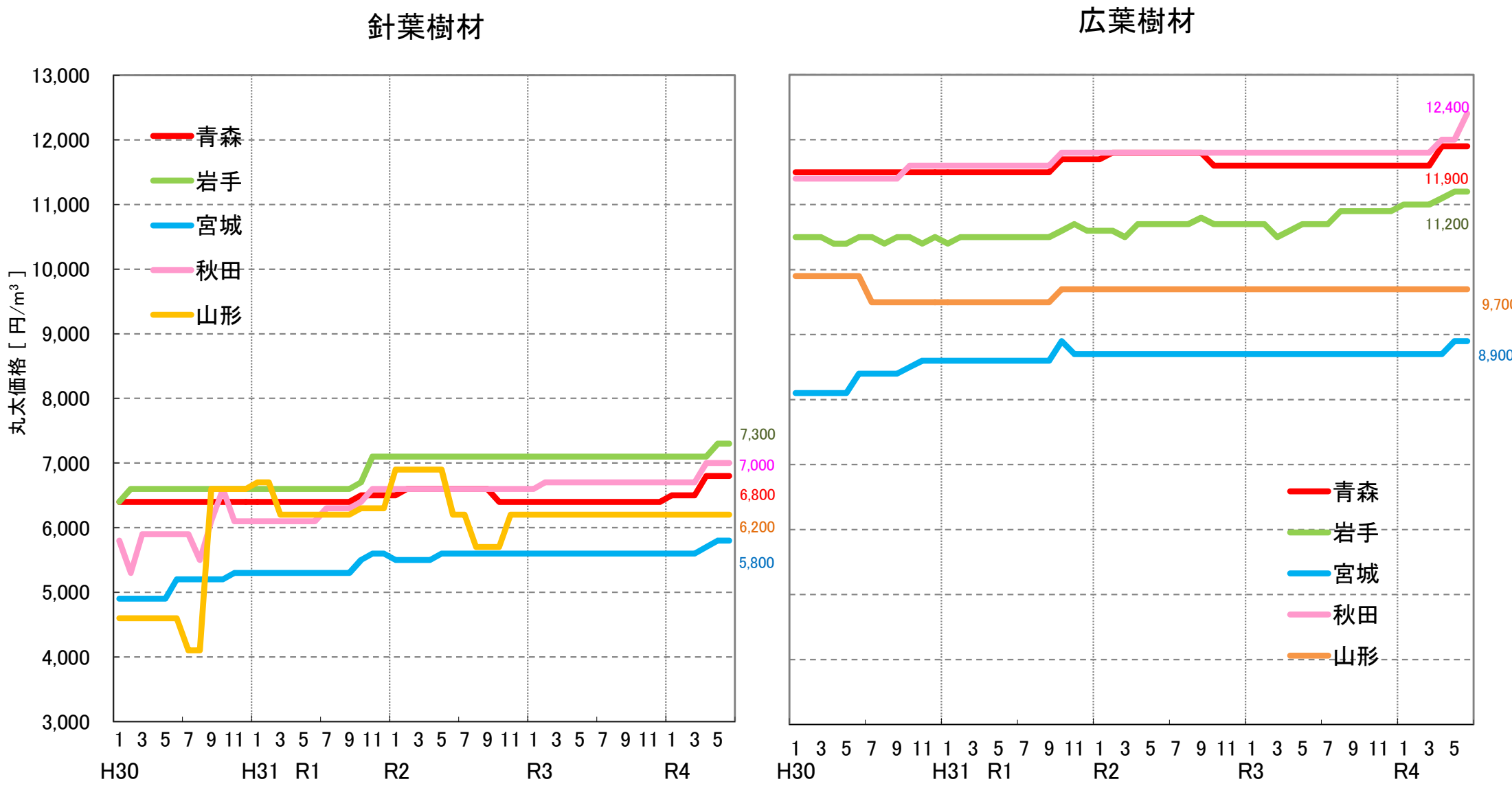
- まつ中丸太価格は青森、岩手とも保合で推移。
- からまつ丸太価格は岩手、北海道とも強含み。北海道との価格差は16,200円。



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

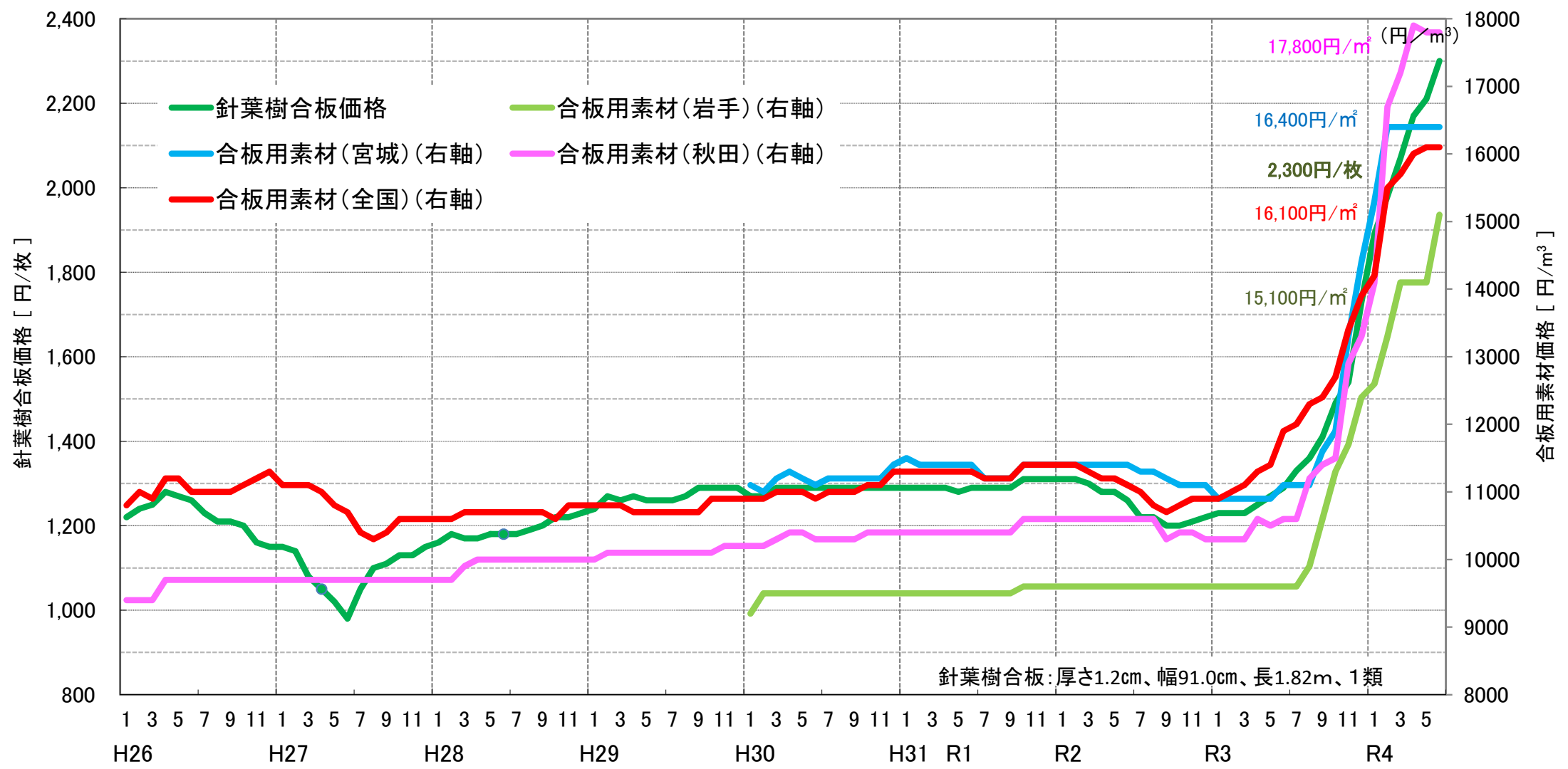
■チップ用丸太価格の推移（平成30年1月～令和4年6月）

○ チップ用丸太価格は針葉樹・広葉樹とも保合～強含み。



針葉樹合板及び合板用素材価格の推移（平成26年1月～令和4年6月）

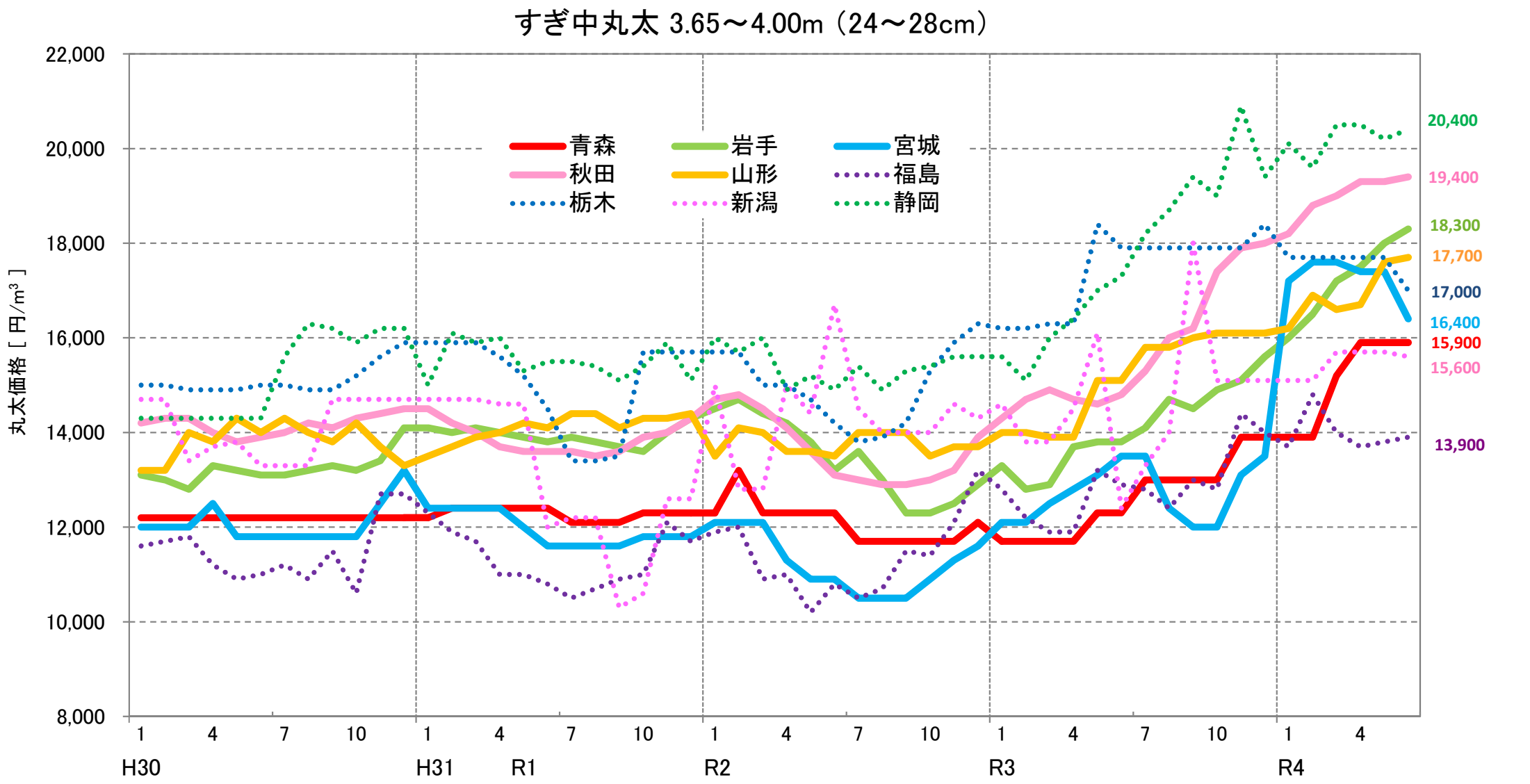
- 針葉樹合板価格は、2,300円/枚。
- 合板用素材価格は、岩手は強含み、秋田・宮城は保合で推移。



■ 関東地方との木材価格の比較 (平成30年1月～令和4年6月)

○ 東北5県では岩手、秋田、山形が強含み。

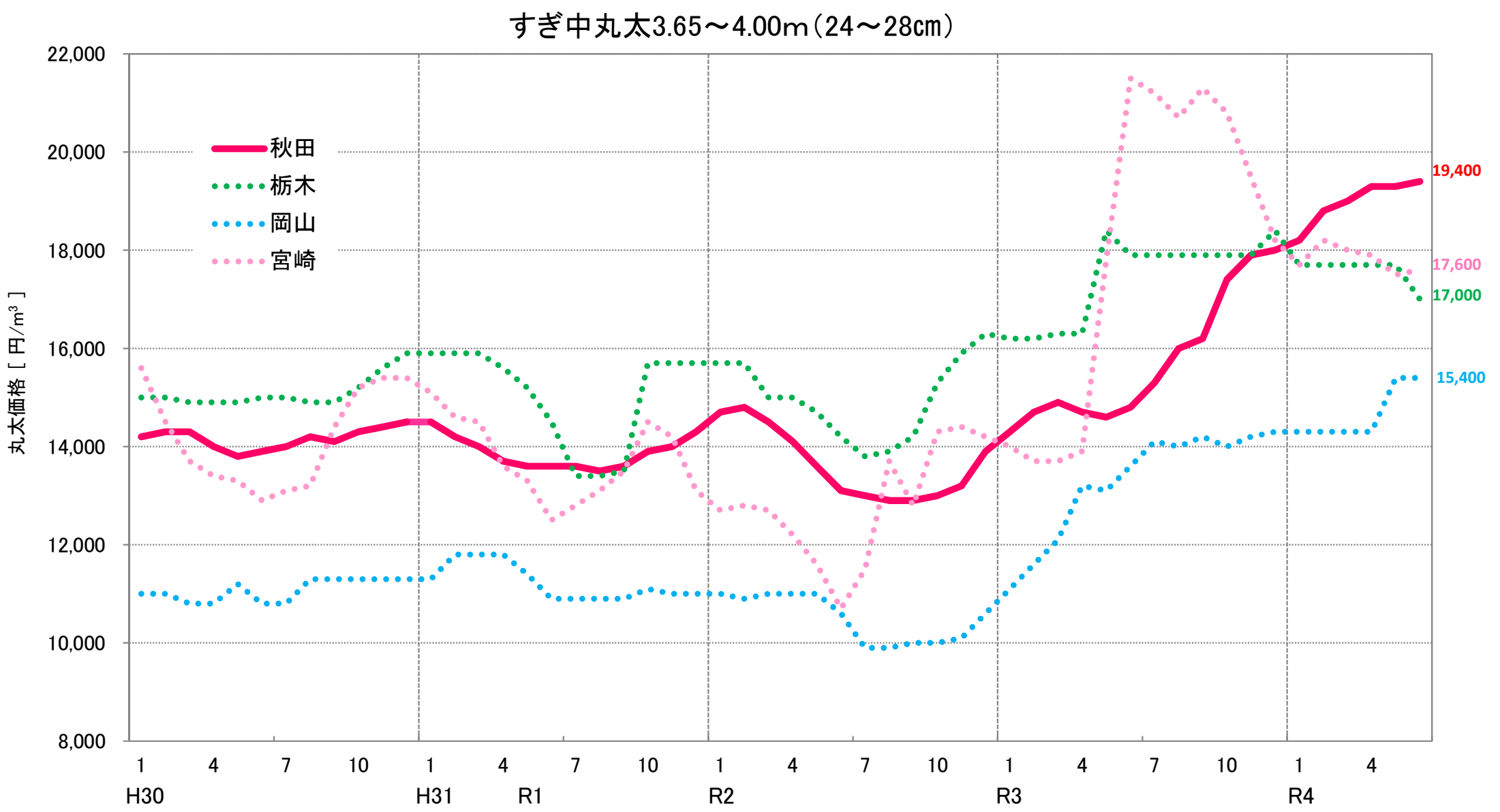
○ 福島、静岡は強含み。



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

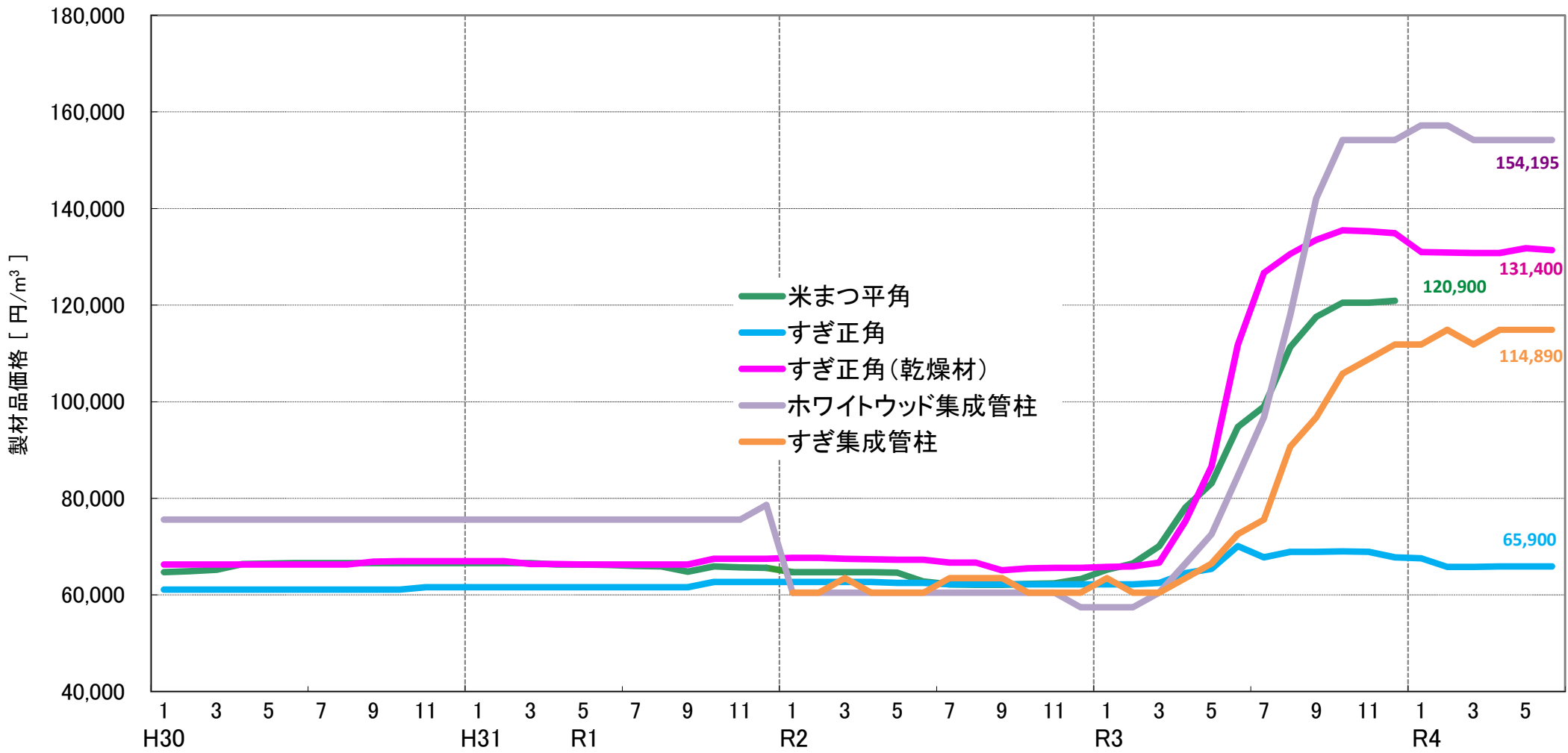
■ 関東、関西、九州地方との木材価格の比較（平成30年1月～令和4年6月）

○ 岡山は強含み。栃木、宮崎は保合。



■ 全国の製材品主要品目価格の推移（平成30年1月～令和4年6月）

○ 各製品とも概ね保合で推移。



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

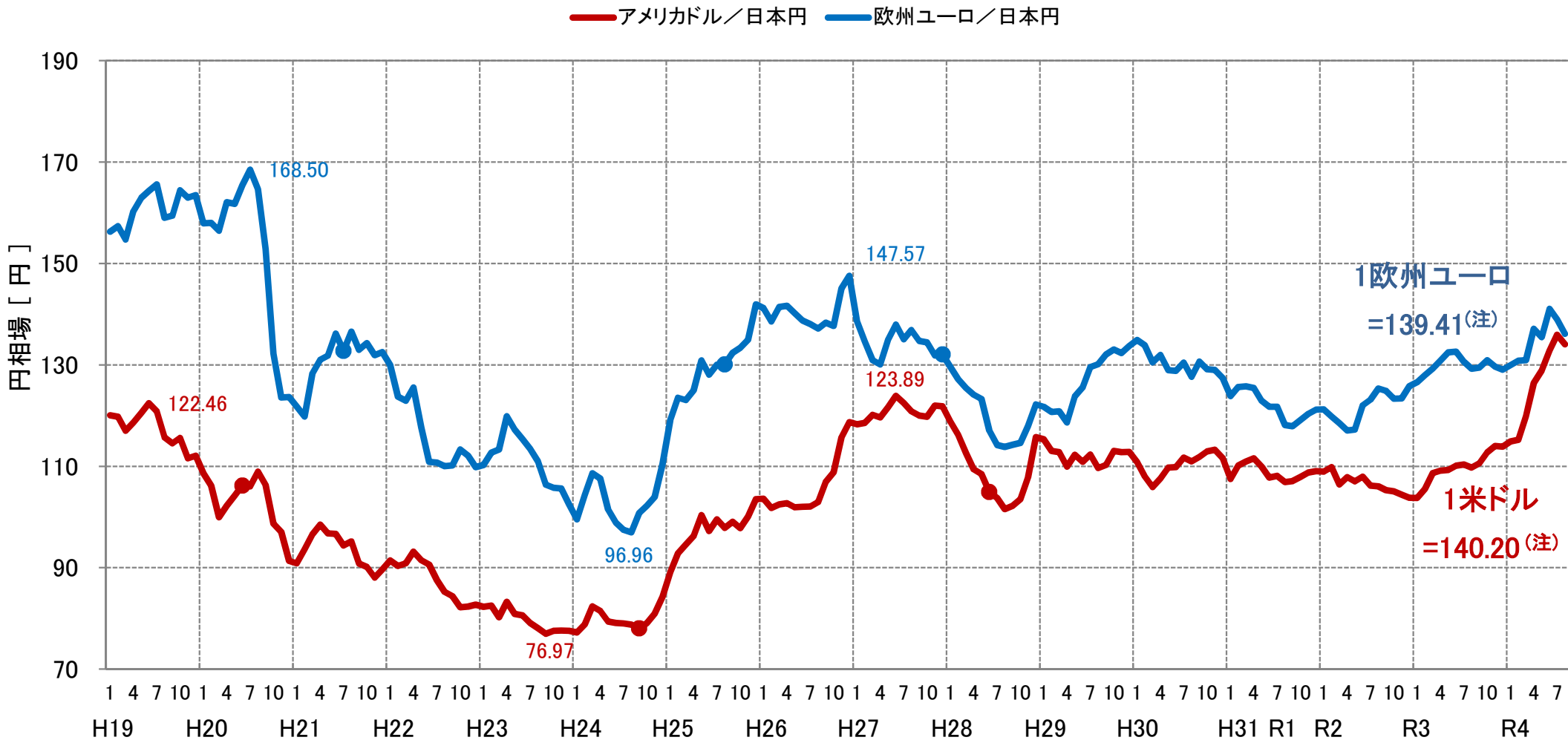
※1 価格は、令和2年1月以降のホワイトウッド集成管柱及びすぎ集成管柱は集成材工場出荷時の販売価格、それ以外は木材市売市場、木材センター及び木材卸売業者における小売業者への店頭渡し価格となる。

※2 令和2年1月からホワイトウッド集成管柱は規格及び調査都道府県、調査対象工場の見直しを行い、調査価格も※1の通り変更となったことから、令和元年12月以前の数値とは接続しない。

■ 為替レートの推移（平成19年1月～令和4年8月）

○ 米ドルは、9月1日現在140円台。

○ 欧州ユーロは、9月1日現在130円台。

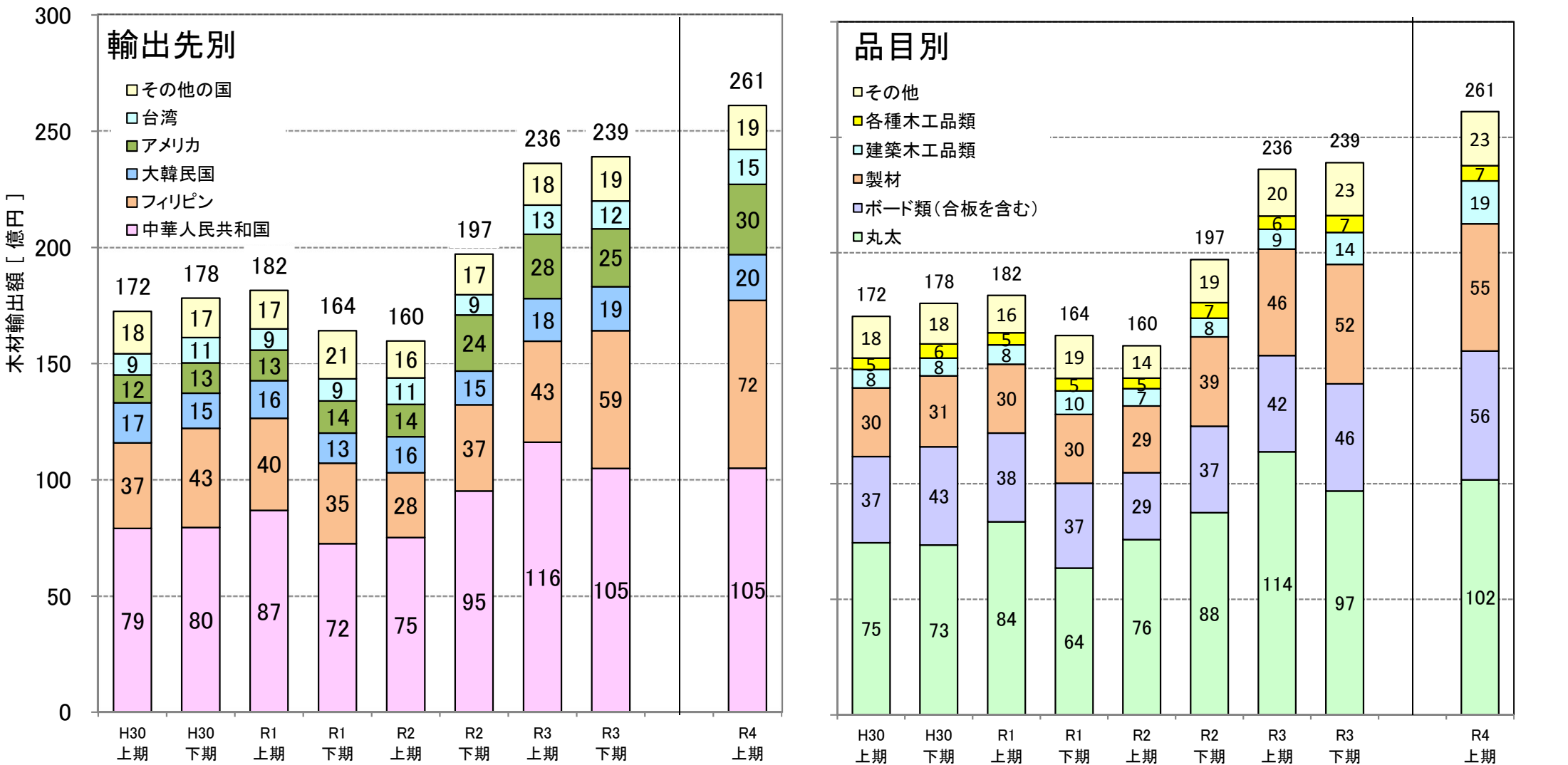


出典：Yahoo! ファイナンス(毎月の値は、月間の最高値と最低値の平均)

(注)：令和4年9月1日現在

■ 輸出先別及び品目別の木材輸出額の推移（全国）

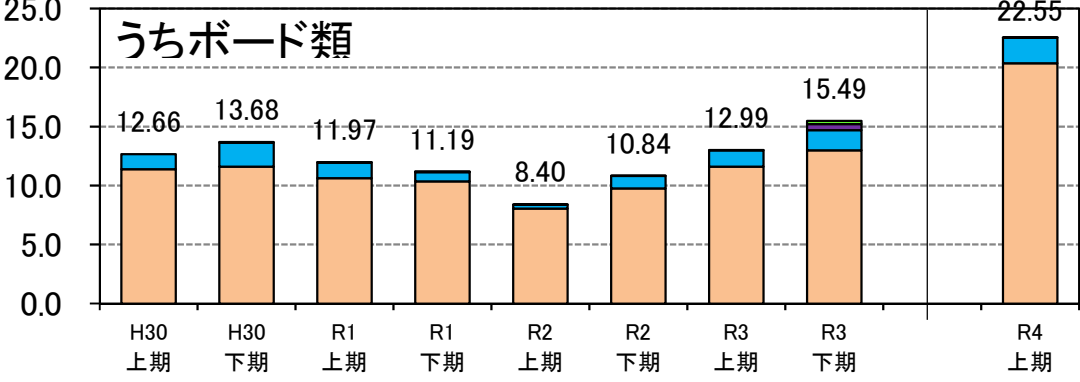
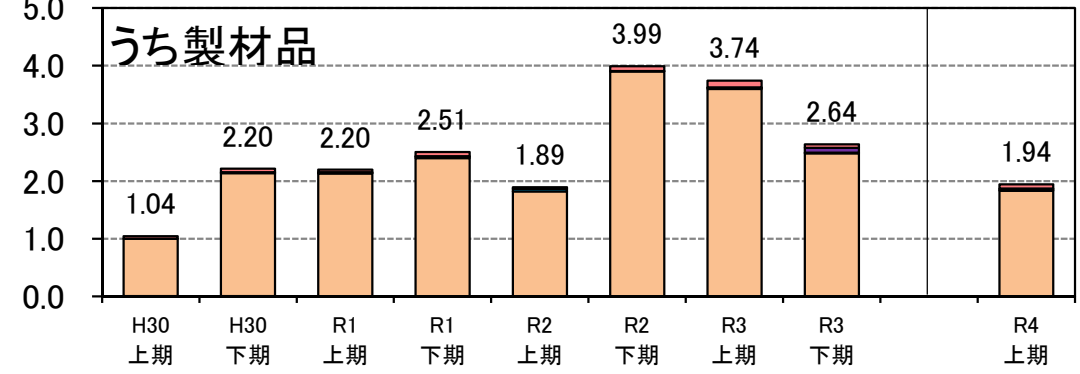
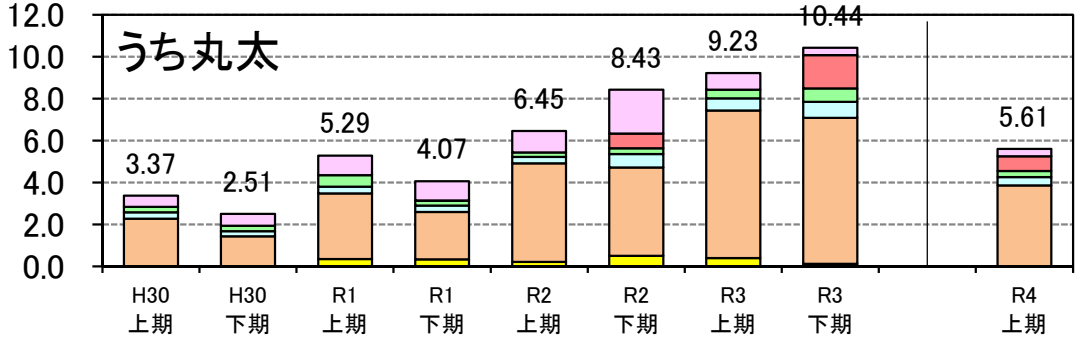
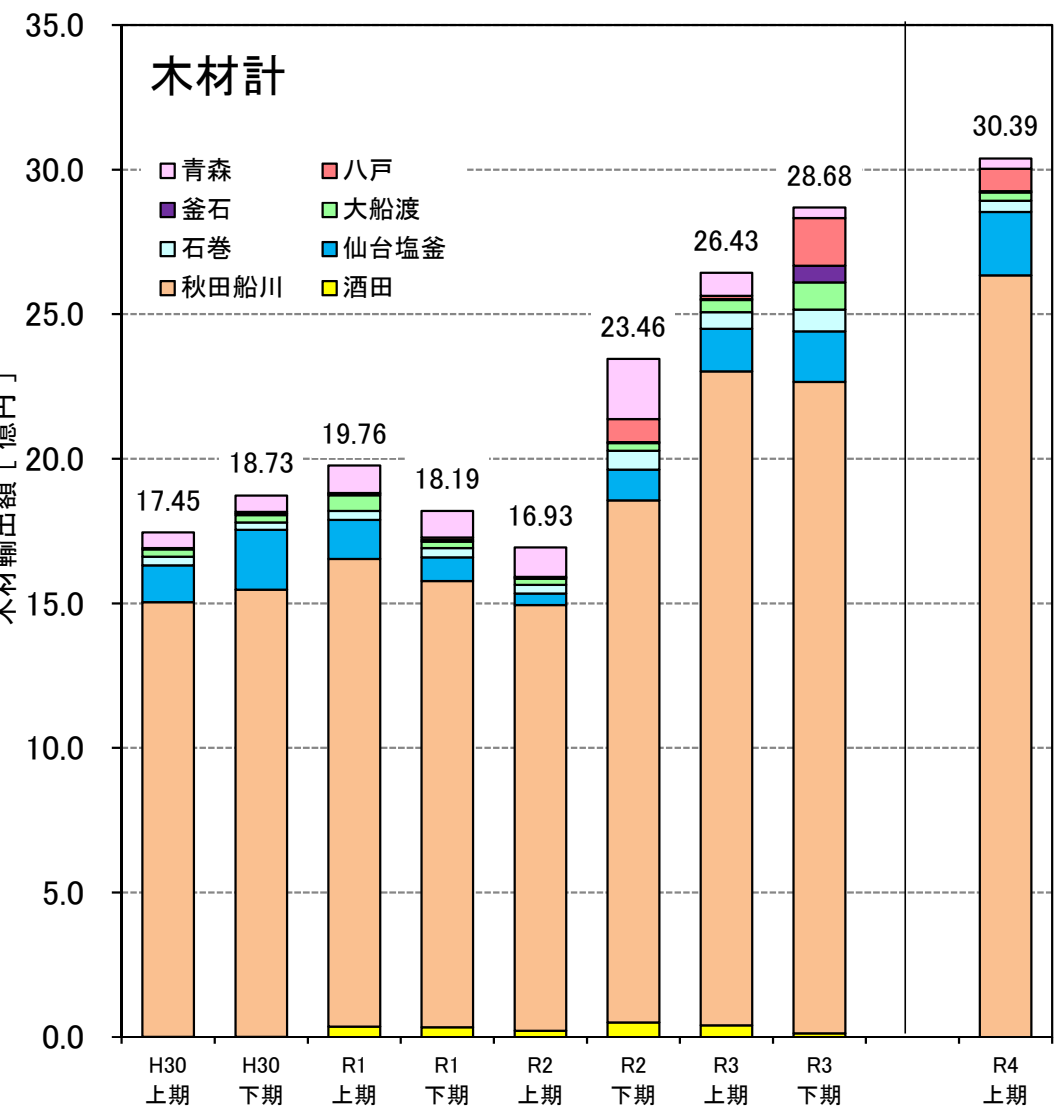
- 木材輸出額はR4年上期を昨年同期と比較すると+11%となっている。
- R4年上期の主要相手国は、中国、フィリピン、アメリカとなっている。
- 品目別輸出額では、丸太が最も高く、次いでボード類、製材となっている。
- R4年上期と昨年同期を比較すると、丸太が－11%、製材が＋19%、ボード類が＋34%となっている。



出典：財務省「貿易統計：統計品別国別税関別一覧表」

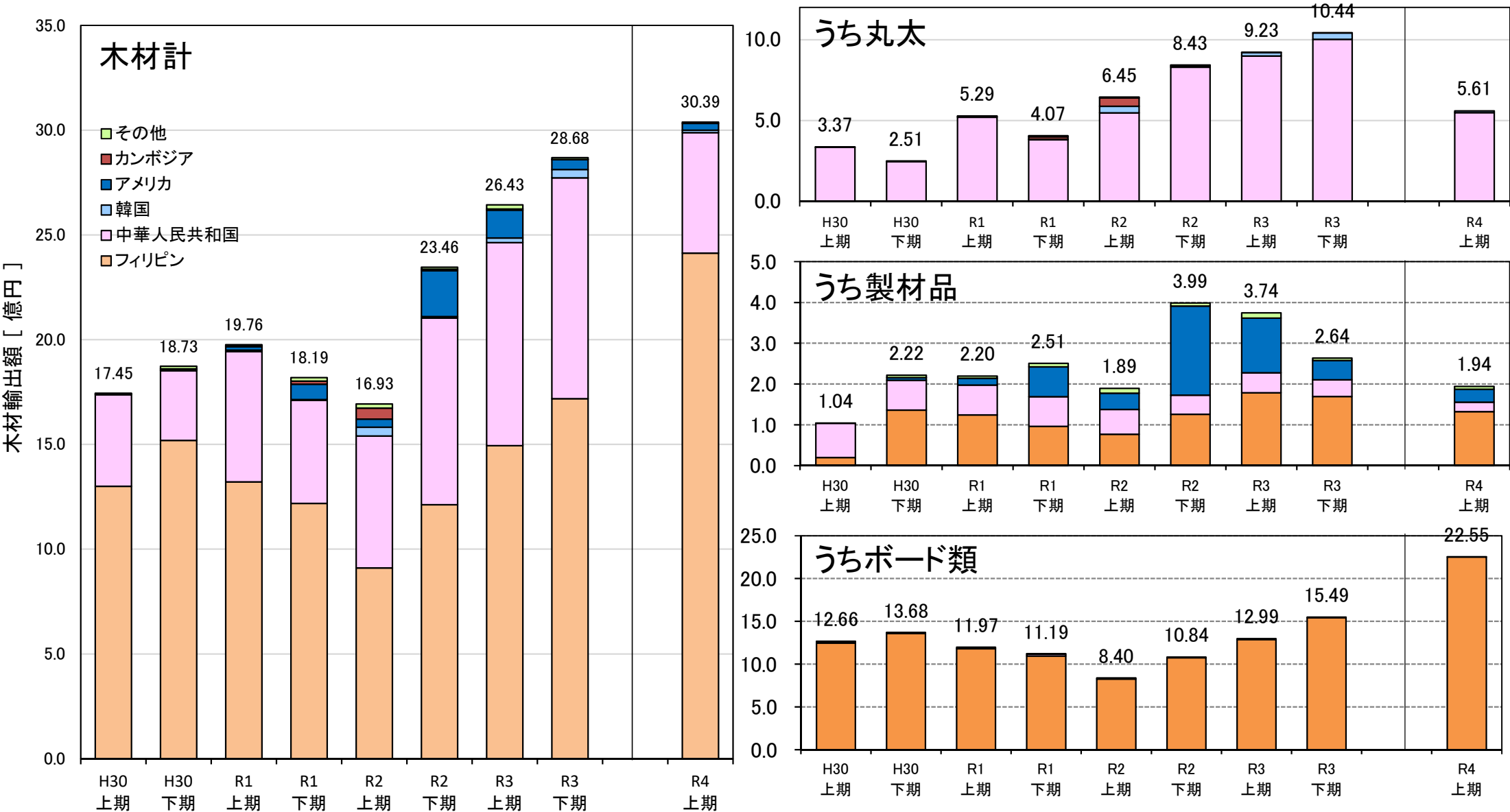
■ 東北5県における木材輸出額の推移

- R4年上期と昨年同期を比較すると+15%となっている。
- R4年上期と昨年同期を品目別比較すると、丸太が-39%、製材が-48%、ボード類が+74%となっている。



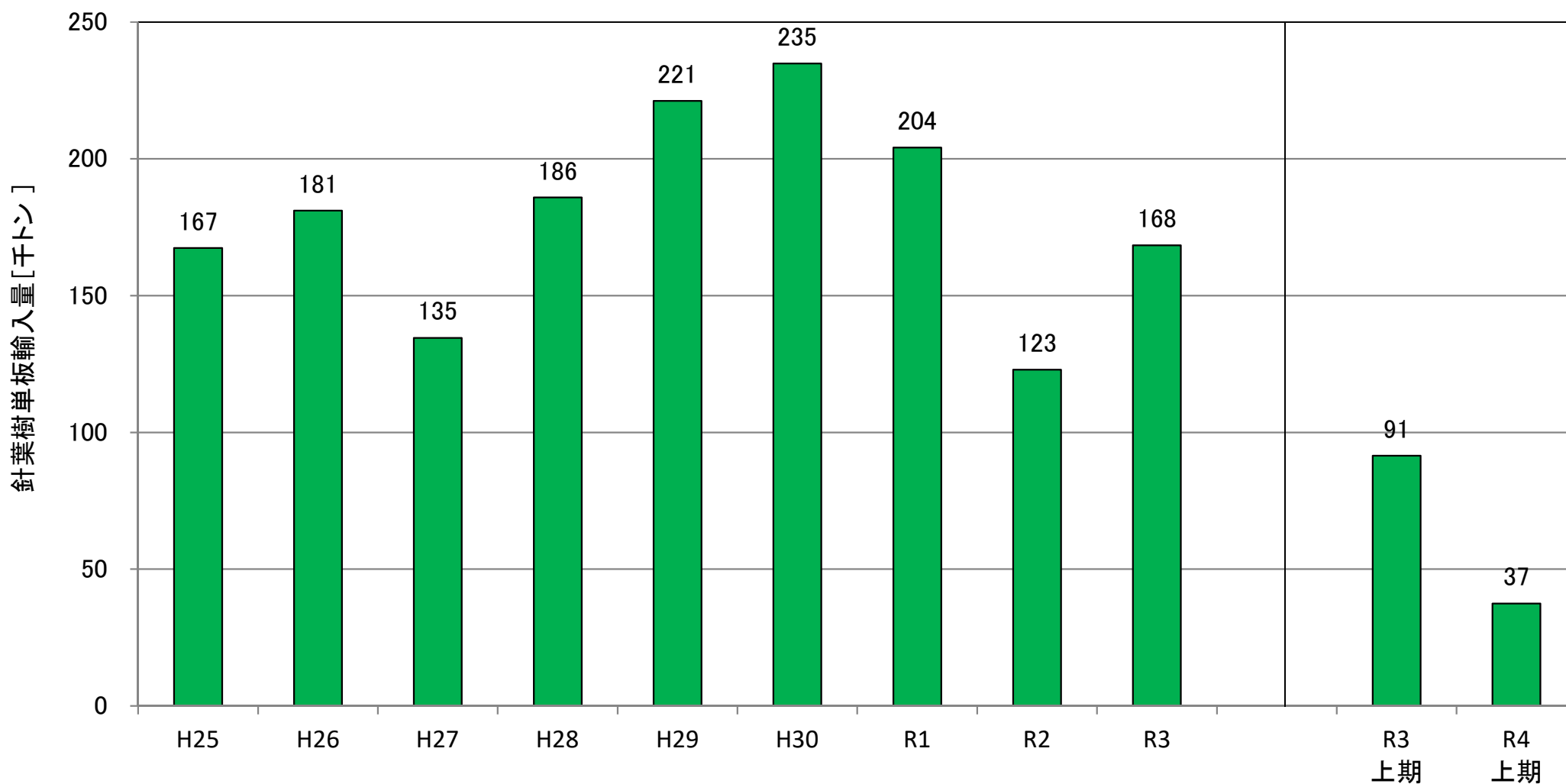
■ 東北5県における輸出先別の木材輸出額の推移

○ R4年上期の木材輸出額は、フィリピンが最も多く、次いで中国、アメリカとなっている。
○ 品目別では、丸太は中国が最も多く、製材、ボード類はフィリピンが最も多くなっている。



■ ロシアからの針葉樹単板の輸入量の推移

- R4年上期と前年同期を比較すると－41%となっている。
- R4年4～6月における単板の輸入実績はなかった。



PKS・木質ペレットの輸入量の推移

- PKS輸入量は年々増加しており、R4年上期と昨年同期を比較すると+24%となっている。
- 主な輸入相手国は、インドネシア75%、マレーシア25%となっている。
- 木質ペレット輸入量は増加しており、R4年上期と昨年同期を比較すると+42%となっている。
- 主な輸入相手国は、ベトナム55%、カナダ32%となっている。

